

令和 2 (2020) 年度博士前期課程学生募集要項(第 2 次募集) 訂正表

標記募集要項の一部文言を、次のとおり訂正します。

3 頁 令和 2 年度 鹿児島大学大学院理工学研究科 博士前期課程 入試日程
表中「出願資格審査の申請期間」欄

【訂正前】令和元年11月19日(火)～20日(水)

【訂正後】令和元年12月 3日(火)～4日(水)

2 2 頁 上から 4 行目「出願資格審査の申請期間」

【訂正前】令和元年11月19日(火)～令和元年11月20日(水) 各日 9 ～ 1 7 時

【訂正後】令和元年12月 3日(火)～令和元年12月 4日(水) 各日 9 ～ 1 7 時

2 9 頁 上から 9 行目「出願資格審査の申請期間」

【訂正前】令和元年11月19日(火)～令和元年11月20日(水) 各日 9 ～ 1 7 時

【訂正後】令和元年12月 3日(火)～令和元年12月 4日(水) 各日 9 ～ 1 7 時

3 4 頁 上から 1 0 行目「出願資格審査 (1) 申請期間」

【訂正前】令和元年11月19日(火)～令和元年11月20日(水) 各日 9 ～ 1 7 時

【訂正後】令和元年12月 3日(火)～令和元年12月 4日(水) 各日 9 ～ 1 7 時

3 5 頁 上から 1 0 行目「Eligibility Check (1)Acceptance period」

【訂正前】From Nov. 19 to Nov. 20, 2019.

【訂正後】From Dec. 3 to Dec. 4, 2019.

以 上

鹿児島大学大学院理工学研究科
博士前期課程

学 生 募 集 要 項

Application Procedures
Admission to the Master's Course

[令和 2 年度]
(第 2 次募集)
Admission in 2020
(2nd application periods)

一 般 選 抜
社 会 人 特 別 選 抜
外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜

(International Students Special Admissions)

鹿児島大学大学院理工学研究科
Graduate School of Science and Engineering, Kagoshima University

令和元（2019）年11月

鹿児島大学大学院理工学研究科 博士前期課程の改組について（お知らせ）

鹿児島大学大学院理工学研究科 博士前期課程では、令和2（2020）年4月から専攻を再編成する改組（下記）を計画のうえ、文部科学省大学設置・学校法人審議会に申請し、このたび認可されました。

つきましては、令和2（2020）年度入学者選抜「第2次募集」は、改組後の専攻で実施します。

記

【現行】10専攻

専攻名等		入学定員
機械工学専攻		50
電気電子工学専攻		45
建築学専攻		25
化学生命・ 化学工学専攻	応用化学・ 生命工学コース	25
	化学工学コース	17
海洋土木工学専攻		18
情報生体システム工学専攻		42
数理情報科学専攻		14
物理・宇宙専攻		15
生命化学専攻		18
地球環境科学専攻		17
計		286



【改組後】2専攻（令和2（2020）年4月）

専攻名等		入学定員	目安の 定員
理学専攻	数理情報科学プログラム	64	10
	物理・宇宙プログラム		17
	化学プログラム		20
	生物学プログラム		11
	地球科学プログラム		6
工学専攻	機械工学プログラム	222	50
	電気電子工学プログラム		45
	海洋土木工学プログラム		18
	化学工学プログラム		17
	化学生命工学プログラム		25
	情報・生体工学プログラム		42
	建築学プログラム		25
計		286	286

※「目安の定員」はおおよその人数であり、志願状況等により増減があります。

目 次

I. 共通事項	頁
○令和2年度 鹿児島大学大学院理工学研究科 博士前期課程 入試日程〔第2次募集〕	3
○募集人員	4
○理工学研究科博士前期課程における入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	5
II. 一般選抜及び社会人特別選抜にかかる共通事項	
1. 募集要項に関する問い合わせ先及び出願書類等提出先	14
2. 各専攻（プログラム）についての問い合わせ先	14
3. 障害のある入学志願者の事前相談	14
4. 出願書類等に関する留意事項	15
5. 検定料の納入について	15
6. 合格者発表	15
7. 入学手続	16
8. 入学料免除	16
9. 入学料徴収猶予	16
10. 授業料免除	17
11. 奨学金	17
12. 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例について	17
13. 長期履修学生制度について	17
14. 個人情報の取扱いについて	17
15. その他	17
入試情報開示	18
III. 一般選抜	
1. 出願資格	21
2. 出願資格認定審査	21
3. 専攻別募集人員	22
4. 出願期間	22
5. 出願書類等	23
6. 一般選抜（筆答試験）の外国語について	24
7. 入学者の選抜方法	25
8. 試験科目・日時及び試験場	25
IV. 社会人特別選抜	
1. 趣旨	28
2. 出願資格	28
3. 出願資格認定審査	29
4. 募集人員	29
5. 出願期間	29
6. 出願書類等	30
7. 入学者の選抜方法	31

V. 外国人留学生特別選抜

APPLICATION PROCEDURES FOR INTERNATIONAL STUDENTS SPECIAL ADMISSIONS

1. 募集人員(Admission Capacity).....	32
2. 出願資格(Qualification for Application)	32
3. 出願資格認定審査 (Eligibility Check before Application)	34
4. 出願手続 (Application Procedure)	34
5. 出願書類等 (Application Documents)	36
6. 入学者の選抜方法 (Screening and Examination Procedure)	38
7. 外国人留学生特別選抜の外国語について.....	38
(International Students Special Admissions: Foreign Language Examinations)	
8. 試験科目・日時及び場所.....	42
(Selected subjects of examination・Date and Place of Examination)	
9. 合格者発表 (Notification of Results)	46
10. 入学手続 (Entrance Formalities)	46
11. 全般的な注意事項 (General Instructions)	48

VI. 大学院理工学研究科博士前期課程の概要（平成31年度）	51
--------------------------------------	----

VII. 平成31年度 入学者選抜に関する入試状況	63
---------------------------------	----

○入学志願関係様式

APPLICATION FOR ADMISSION (MASTER'S COURSE)

I. 共通事項

○ 令和2年度 鹿児島大学大学院理工学研究科 博士前期課程 入試日程

【第2次募集】

区 分		出願資格審査 の 申 請 期 間	出願資格審査 の結果通知日	出願期間	試 験 日	合格者発表 日 時	入学手続日
一 般 選 抜	筆 答 試 験	令和元年 11月19日(火) ～ 20日(水)	令和元年 12月18日(水)	令和 2 年 1月7日(火) ～ 9日(木)	令和 2 年 2月17日(月) ～ 18日(火)	令和 2 年 3月3日(火) 10時	令和 2 年 3月13日(金) 及び 16日(月)
社会人特別選抜					令和 2 年 2月18日(火)		
外国人留学生特別選抜					令和 2 年 2月17日(月)		

(注1) 学部3年次生を対象とする選抜の第2次募集は行わない。

(注2) 「出願資格審査の申請期間」及び「出願資格審査の結果通知日」欄は、該当者のみ対象。

(注3) 令和2年3月14日(土)及び15日(日)は入学手続日ではない。

問い合わせ先・出願書類等提出先 Please address your inquiries to:

〒890-0065

鹿児島市郡元一丁目21番40号 鹿児島大学理工学研究科等研究科・工学系学務課大学院係

電話 (099) 285-3057・8234 FAX (099) 285-3410

E-mail: sedaigakuin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

○ 募集人員

【第2次募集】

専攻名等		募 集 人 員		
		一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜	外国人留学生 特 別 選 抜
		筆 答 試 験		
理 学 専 攻	数 理 情 報 科 学 プ ロ グ ラ ム	各プログラム とも 若 干 人	各プログラム とも 若 干 人	各プログラム とも 若 干 人
	物 理 ・ 宇 宙 プ ロ グ ラ ム			
	化 学 プ ロ グ ラ ム			
	生 物 学 プ ロ グ ラ ム			
	地 球 科 学 プ ロ グ ラ ム			
工 学 専 攻	機 械 工 学 プ ロ グ ラ ム	各プログラム とも 若 干 人	各プログラム とも 若 干 人	各プログラム とも 若 干 人
	電 気 電 子 工 学 プ ロ グ ラ ム			
	海 洋 土 木 工 学 プ ロ グ ラ ム			
	化 学 工 学 プ ロ グ ラ ム			
	化 学 生 命 工 学 プ ロ グ ラ ム			
	情 報 ・ 生 体 工 学 プ ロ グ ラ ム			
	建 築 学 プ ロ グ ラ ム			

○理工学研究科博士前期課程における入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

(1) 教育目標

鹿児島大学大学院理工学研究科の理念は、「真理を愛し、高い倫理観を備え、自ら困難に挑戦する人格を育成し、時代の要請に対応できる教育研究の体系と枠組みを創成することによって、地域並びに国際社会の進展に寄与する」です。この理念を受けて、「理工学に関する基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教授研究し、その深奥を極めて文化の進展に寄与する人材の育成」を目的とし、そのため、「今日の諸課題に対応できる倫理的判断力及び人間生活を取り巻く自然についての総合的な知識をもち、自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応できる、次世代を担う技術者、研究者、さらには高度専門職業人を養成する」ことを目標としています。

(2) 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

①求める人材像

- ・理工学研究科の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力と意欲を持ち、科学的で合理的な思考ができ、コミュニケーション能力のある人
- ・理工学分野の諸課題に強い関心を持ち、強い探求心を持って諸課題にチャレンジする努力を惜しまない人
- ・理工学分野のさまざまな現象を解析するため、科学的かつ多面的な観察計画を立案し、それを論理的に解析する能力の研鑽を目指す人
- ・専門知識を基礎に、多様な価値観や文化を大切にし、高い倫理観を持って地域並びに国際社会に貢献することを志す人

②入学前に身につけておいて欲しいこと

学士としての知識・能力、志望する専攻の専門的分野の知識・技術、及び外国語（英語）の能力が必要となります。

③入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目（理学又は工学において、志望する専攻の修士学位プログラムの専門分野から出題）、外国語科目（英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、志望する専攻の修士学位プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課すとともに、出身学校の成績及び業績（業務）報告書等も踏まえ、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、志望する専攻の修士学位プログラムの専門分野に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目（理学又は工学において、志望する専攻の修士学位プログラムの専門分野から出題）、外国語科目（日本語又は英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、志望する専攻の修士学位プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（日本語又は英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

理学専攻における入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

＜教育目標＞

理学専攻は、数学及び自然科学の知識と研究経験を生かして、地域ならびに国際社会の発展に積極的に貢献する技術者、研究者、教育者など高度専門職業人を養成することを教育目標としています。

＜入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）＞

1. 求める人材像

- ・理学専攻の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力と意欲を持ち、科学的で合理的な思考ができ、コミュニケーション能力のある人
- ・理学分野の諸課題に強い関心を持ち、強い探求心を持って諸課題にチャレンジする努力を惜しまない人
- ・理学分野のさまざまな現象を解析するため、科学的かつ多面的な観察計画を立案し、それを論理的に解析する能力の研鑽を目指す人
- ・専門知識を基礎に、多様な価値観や文化を大切にし、高い倫理観を持って地域並びに国際社会に貢献することを志す人

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

学士としての知識・能力、理学専攻の専門的分野の知識・技術、及び外国語（英語）の能力が必要となります。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目（理学において、志望する修士学位プログラムの専門分野から出題）、外国語科目（英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、志望する修士学位プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課すとともに、出身学校の成績及び業績（業務）報告書等も踏まえ、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、志望する修士学位プログラムの専門分野に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目（理学において、志望する修士学位プログラムの専門分野から出題）、外国語科目（日本語又は英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、志望する修士学位プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（日本語又は英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

工学専攻における入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

＜教育目標＞

工学専攻は、工学に関連した高度な専門知識・学力・応用力に加え、専門以外の幅広い知識や高度な倫理観やコミュニケーション能力を身につけ、地域並びに国際社会のニーズ変化に対して自立的で実践的に対応できる高度なエンジニアリング・デザイン能力をもった高度専門職業人を養成することを教育目標としています。

＜入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）＞

1. 求める人材像

- ・工学専攻の教育目標に共感し、それを実現できる基礎学力と意欲を持ち、科学的で合理的な思考ができ、コミュニケーション能力のある人
- ・工学分野の諸課題に強い関心を持ち、強い探求心を持って諸課題にチャレンジする努力を惜しまない人
- ・工学分野のさまざまな現象を解析するため、科学的かつ多面的な観察計画を立案し、それを論理的に解析する能力の研鑽を目指す人
- ・専門知識を基礎に、多様な価値観や文化を大切にし、高い倫理観を持って地域並びに国際社会に貢献することを志す人

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

学士としての知識・能力、工学専攻の専門的分野の知識・技術、及び外国語（英語）の能力が必要となります。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目（工学において、志望する修士学位プログラムの専門分野から出題）、外国語科目（英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、志望する修士学位プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課すとともに、出身学校の成績及び業績（業務）報告書等も踏まえ、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、志望する修士学位プログラムの専門分野に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目（工学において、志望する修士学位プログラムの専門分野から出題）、外国語科目（日本語又は英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、志望する修士学位プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（日本語又は英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

数理情報科学プログラムにおける入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

＜教育目標＞

数理情報科学プログラムでは、数学、数学を基盤とした情報科学や統計科学について講義・セミナーを通じて学びます。数学や情報科学や統計科学を深く学ぶことにより、創造的かつ柔軟な思考力をもつ技術者、研究者、教育者など高度専門職業人の育成を目標にしています。

＜入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）＞

1. 求める人材像

- ア) 数学や数学に関連した情報科学、統計科学に関心をもつ人
- イ) 強い学習意欲、課題探求力をもつ人

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

微分積分学、線形代数学、統計学の基礎学力に加えて、高い論理的思考力と表現力が必要となります。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）の数学では、微分積分学、線形代数学の基礎知識と基本的運用能力、論理的思考力、表現力を、外国語では、数理情報科学の文献を読むために必要な英語力を評価します。口頭試問を含む面接を課し、数学の基礎知識と基礎的運用能力、適性、意欲、コミュニケーション能力を評価します。なお、出身学校の成績も評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課し、数学の基礎知識と基礎的運用能力、適性、意欲、コミュニケーション能力を評価するとともに、書類審査をします。なお、出身学校の成績も評価します。

外国人留学生特別選抜の数学では、微分積分学、線形代数学の基礎知識と基本的運用能力、論理的思考力、表現力を評価します。外国語では、原則として、英語、または日本語の試験を課します。なお、出身学校の成績も評価します。

物理・宇宙プログラムにおける入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

＜教育目標＞

物理・宇宙プログラムでは、世界に通用する物質科学や宇宙科学に関連した教育・研究を行っています。大学院教育・研究により培った問題解決能力を活かして、専門的知識を持った創造的で指導的な役割を担う社会人の育成を目標としています。

＜入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）＞

1. 求める人材像

本プログラムの教育目的（ディプロマポリシー）を理解し、必要な教育を受けると共に研究活動を通じて高度の専門能力を修得しようとする十分な意欲とそれに必要な基礎学力を有する人

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

学士としての知識・能力、物理学または天文学に関する専門的知識及び技術が必要になります。また、海外の研究者と的確な情報交換ができるだけの外国語（主として英語）能力を修得していることを求め

ます。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目・外国語科目（英語）及び面接を課します。出身学校の成績も踏まえ、物理学または天文学に関する知識・能力及び外国語（英語）の能力や、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課すとともに、出身学校の成績及び業績（業務）報告書等も踏まえ、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、物理学または天文学に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目、外国語科目（日本語又は英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、物理学または天文学に関する知識・能力、外国語（日本語または英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

化学プログラムにおける入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

＜教育目標＞

化学プログラムの教育理念は、「基礎知識と応用力を兼ね備えた人材」「大学院で身に付けた能力を、地域や国際社会で活用できる人材」「急激な社会の変化に対応でき、さらなる発展に寄与できる人材」の育成です。教育と研究を通して、高度の専門能力を備えた人材を輩出することを目標としています。

＜入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）＞

1. 求める人材像

- ・化学プログラムの教育理念を理解し、それを実現できる学力と意欲を持っている人材
- ・化学に関わる研究分野に興味を持ち、その発展に対する貢献に熱意がある人材
- ・化学の研究を通して、高い倫理観を持ちつつ、科学や社会の発展に寄与したいと思う人材
- ・合理的で柔軟な科学的思考力を有しており、研究の内容や計画について簡潔明瞭に発表・説明できる人材

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

化学に関する基礎的な知識と実験技術・観察力を有していることが必要です。また、研究に必要な知識や情報を収集、また学術論文を読解するための、英語の語学力並びにコミュニケーション力が必要となります。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜により、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる知識・能力、適性・意欲を、以下の選抜方法により評価します。

一般選抜（筆答試験）では、専門科目、外国語科目（英語）に関する試験および面接により選抜します。社会人特別選抜では、研究計画書等、口頭試問を含む面接により選抜します。

外国人留学生特別選抜では、専門科目、外国語科目（日本語または英語、ただし英語を母国語とする受験生の場合は日本語に限る）に関する試験および面接により選抜します。

生物学プログラムにおける入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

＜教育目標＞

生物学プログラムの教育理念は主に2点あります。

- （1）生物学の幅広い知識と技術応用力をあわせ持ち、幅広い分野で活躍することのできる人材を育成する。
- （2）地域ならびに国際社会で科学、技術の発展に貢献する人材を育成する。

これらの理念を達成するため、教育理念を理解し、教育・研究を通して、高度の専門能力を備えた人材を排出することを目標としています。

＜入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）＞

1. 求める人材像

- （1）生物学プログラムの教育理念を理解し、それを実現できる学力と意欲を持っている人材
- （2）生物に関わる研究分野に興味を持ち、その発展に対する貢献に熱意のある人材

- (3) 生物の研究を通して、高い倫理観をもって、科学あるいは社会の発展に寄与したいと思う人材
- (4) 合理的で柔軟な科学的思考力を有しており、研究の内容や計画について簡潔明瞭に発表・説明できる人材

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

生物に関する知識と実験技術を有していることが必要です。また、研究に必要な知識や情報を世界中から収集するため、英語の語学力並びにコミュニケーション力が必要となります。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、専門科目、外国語科目（英語）に関する試験および面接を評価します。社会人特別選抜では、研究計画書等、口頭試問を含む面接を評価します。

外国人留学生特別選抜では、専門科目、外国語（日本語または英語、ただし英語を母国語とする受験生の場合は日本語に限る）に関する試験および面接を評価します。

地球科学プログラムにおける入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

<教育目標>

人間が生存する場である地球について高度な専門的知識を持ち、倫理的判断力を備えた創造的で指導的な役割を担う専門的職業人の育成を目指しています。

<入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 求める人材像

地球科学プログラムの教育目標を理解し、教育研究を通して高度の専門知識を修得しようとする意志とその為に必要となる十分な基礎学力を有する人。

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

地球科学プログラムでは、物理学、化学、生物学、および地学分野をベースとした研究・教育を行うため、これらのいずれかの分野の専門的知識や、実際に実験観察等を行うための技術も必要となります。また、英文の学術論文を理解するための外国語（英語）能力も必要です。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、専門科目、外国語科目（英語）の筆記試験及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口頭試問を含む面接、出身学校の成績及び業績（業務）報告書等も踏まえ、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、専門科目（地球科学の分野から出題）、外国語科目（日本語又は英語）の筆記試験及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（日本語又は英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

機械工学プログラムにおける入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

<教育目標>

機械工学プログラムで取り扱う教育研究の範囲は、材料の物性と強度、構造物設計、機器の設計と制御、生産加工、熱・流体が関与する諸現象、エネルギー利用技術、各種工学現象の解明や機械設計への計算機利用技術並びに各種システム構成技術などである。本プログラムでは、学部教育課程での機械工学基礎教育を踏まえ、機械技術の高度化と先端化を追求するために必要な知識を積極的に取り入れて応用することのできるエンジニアの育成を目指しています。

<入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 求める人材像

機械工学プログラムの教育目標を踏まえ、本プログラムは次のような人を求めます。

- ・総合的かつ長期的視野と高い倫理観を持って、機械工学の立場から、人類社会への貢献を志す人
- ・種々の機械工学的課題の本質を解明することができる基礎学力と探求意欲を持ち、その原理に基づい

て課題を解決する展開力を継続的に研鑽する人

- ・種々の機械工学的課題に対して、課題解決の計画を立案し、個人・チーム力の総力を発揮して、課題に臨む計画能力およびコミュニケーション能力のある人

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

学士としての知識・能力、機械工学に関する基礎的な知識と技能及び外国語（英語）の高い知識・能力が必要となります。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、機械工学に関する専門科目、外国語科目（英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、機械工学プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（英語）の能力、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課すとともに、出身学校の成績及び業績（業務）報告書等も踏まえ、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、機械工学プログラムの専門分野に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、機械工学に関する専門科目、外国語科目（日本語又は英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、機械工学プログラムの専門分野に関する知識・能力・外国語（日本語又は英語）の能力、適性・意欲等を評価します。

電気電子工学プログラムにおける入学者受入方針(アドミSSION・ポリシー)

<教育目標>

電気電子工学プログラムでは、高度情報化社会を先導する産業活動の中で、世界をリードする技術を追求できる専門的な能力と倫理的判断力を持った創造的で指導的な役割を担う専門的職業人の育成を目指しています。

<入学者受入方針（アドミSSION・ポリシー）>

1. 求める人材像

以下に示す電気電子工学プログラムの教育目的を理解し、本プログラムにおける教育研究を通して高度の専門能力を修得しようとする十分な基礎学力を有する人

- ・多様かつ動的に変化する社会の要請に対し、幅広い視野から高度の専門能力を駆使して柔軟かつ迅速に対応できる人材を育成すること
- ・電気電子工学関連の新しい技術を自ら創出して課題を解決する創造的能力を持つ人材を育成すること
- ・高度情報化社会をリードする意欲に富み、かつ地域並びに国際社会への貢献に対する使命感を持つ人材を育成すること

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

電気電子工学プログラムの専門分野の基礎的知識・技術及び外国語（英語）の能力が必要となります。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目（応用数学、電気磁気学、電気回路学）、外国語科目（英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、電気電子工学プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課すとともに、出身学校の成績及び業績（業務）報告書等も踏まえ、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、電気電子工学プログラムの専門分野に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目（応用数学、電気磁気学、電気回路学）、外国語科目（日本語又は英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、電気電子工学プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（日本語又は英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

海洋土木工学プログラムにおける入学受入方針(アドミッション・ポリシー)

<教育目標>

海洋土木工学プログラムでは、海洋学と土木工学に関わる高度な専門教育並びに研究活動を通じて、海洋に関する深い理解とそれに関連した土木工学の知識と判断力、並びに高い倫理観を有する専門的職業人の育成を目指しています。

<入学受入方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 求める人材像

- ・本プログラムの教育目標を理解し、海洋土木工学への興味と学習意欲が旺盛であり、海洋土木工学を学ぶ上で必要な基礎学力とコミュニケーション能力を有する人
- ・地球的視点から多面的に物事を考えることができ、国土・海洋の開発と自然環境との持続的調和に高い関心を有する人
- ・本プログラムで獲得した専門知識を基礎に、高い倫理観を持って地域並びに国際社会に貢献することを志す人

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

海洋土木工学に関する専門的知識・技術及び外国語（英語）の高い知識・能力が必要となります。

3. 入学選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目、外国語科目（英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課すとともに、出身学校の成績及び業績（業務）報告書等も踏まえ、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目、外国語科目（日本語又は英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語（日本語又は英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

化学工学プログラムにおける入学受入方針(アドミッション・ポリシー)

<教育目標>

化学工学プログラムの教育理念は、「人間社会と自然環境と科学技術の調和と持続可能性を希求しつつ、国際的な視野から新しい科学技術・産業構造を提案し、地域並びに世界に発信できる高度専門職業人を育成する」ことです。この理念を受けて、「化学工学の専門家として、幅広い視野をもち、グローバル社会で活躍できる人材の育成」を目的として、そのため、「柔軟な思考力と探求心を備えた化学工学に係わる分野の中で、世界をリードする技術を追求できる専門的な能力と倫理的判断力を持った創造的で指導的な役割を担う専門的職業人を育成する」ことを目標としています。

<入学受入方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 求める人材像

- ・化学工学プログラムの教育目的を理解し、本プログラムにおける教育研究を通して高度の専門能力を修得しようとする十分な基礎学力を有する人
- ・柔軟な思考力、探求心を持って柔軟かつ創造的に解決する能力を身につけたい人
- ・化学工学の知識を生かしてグローバルな視点で活躍したい人
- ・新しい科学技術に対応できる高度な知識と倫理的判断力を養いたい人

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

化学工学プログラムにおける教育研究を通して高度の専門能力を修得できる十分な基礎学力が必要となります。

3. 入学選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目（化学工学

プログラムの専門分野から出題)、外国語科目(英語)及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語(英語)の読解能力、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課すとともに、出身学校の成績及び業績(業務)報告書等も踏まえ、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目(化学工学プログラムの専門分野から出題)、外国語科目(日本語又は英語)及び面接の結果を踏まえ、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語(日本語又は英語)の読解能力、適性・意欲等を評価します。

化学生命工学プログラムにおける入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

＜教育目標＞

化学生命工学プログラムの教育理念は、「人間社会と自然環境と科学技術の調和を希求しつつ、国際的な視野から新しい科学技術・産業構造を提案し、地域並びに世界に発信できる高度専門職業人を育成する」ことです。この理念を受けて、「応用化学、生命工学の専門家として、幅広い視野をもち、グローバル社会で活躍できる人材の育成」を目的として、そのため、「柔軟な思考力と探求心を備えた応用化学、生命工学に係わる分野の中で、世界をリードする技術を追求できる専門的な能力と倫理的判断力を持った創造的で指導的な役割を担う専門的職業人を育成する」ことを目標としています。

＜入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)＞

1. 求める人材像

- ・化学生命工学プログラムの教育目的を理解し、本プログラムにおける教育研究を通して高度の専門能力を修得しようとする十分な基礎学力を有する人
- ・柔軟な思考力、探求心を持って柔軟かつ創造的に解決する能力を身につけたい人
- ・化学生命工学の知識を生かしてグローバルな視点で活躍したい人
- ・新しい科学技術に対応できる高度な知識と倫理的判断力を養いたい人

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

化学生命工学プログラムにおける教育研究を通して高度の専門能力を修得できる十分な基礎学力が必要となります。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜(筆答試験)では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目、外国語科目(英語)及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語(英語)の読解能力、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課すとともに、出身学校の成績及び業績(業務)報告書等も踏まえ、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門科目、外国語科目(日本語又は英語)及び面接の結果を踏まえ、本プログラムの専門分野に関する知識・能力、外国語(日本語又は英語)の読解能力、適性・意欲等を評価します。

情報・生体工学プログラムにおける入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

＜教育目標＞

情報・生体工学に関する基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教育研究し、その深奥を極めて地域並びに国際社会の進展に寄与する人材を育成する目的を達成するため、情報・生体工学の十分な知識と応用力を持ち、同時にヒトの認知や生体システムも理解し、情報・生体工学の複合分野で創造力を持って問題に対応できる専門知識と倫理的判断力を持った高度専門職業人を養成することを目標としています。

＜入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)＞

1. 求める人材像

- ・情報・生体工学プログラムの教育目標を理解し、それを実現できる基礎学力とコミュニケーション能

力を有する人

- ・情報・生体工学の諸課題に強い関心を持ち、課題にチャレンジする意欲を有する人
- ・情報・生体工学分野の専門知識を基礎に、高い倫理観を持って地域並びに国際社会に貢献することを志す人

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

情報・生体工学に関する専門的知識・技術及び外国語（英語）の高い知識・能力が必要となります。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、専門、外国語科目（英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、情報・生体工学に関する知識・能力、外国語（英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課すとともに、出身学校の成績及び業績（業務）報告書等も踏まえ、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、情報・生体工学に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、情報・生体工学に関する専門科目、外国語科目（日本語又は英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、情報・生体工学の分野に関する知識・能力、外国語（日本語又は英語）の読解能力、適性・意欲等を評価します。

建築学プログラムにおける入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

<教育目標>

建築学プログラムでは、人類の建築文化と技術を継承し、地球環境の保全に配慮しながら、現代の科学技術と過去の経験を総合的に活用して、建築空間と生活環境の創造・維持を担う専門的職業人・研究者の養成を教育の理念としています。問題発掘能力とその解決能力、実験・解析の実行能力を身に付けることが可能な基礎学力を有し、それを専門領域や学際問題に活用でき、異分野の専門と協調して広く活躍できる、建築学分野で自立できる素養を持つ科学技術者・研究者の教育を目指しています。

<入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）>

1. 求める人材像

- ・真に価値ある人間性を呼び覚ますような環境を主体的に創造できる人
- ・人との対話や協調性、物事に対する行動力や主体性を備えた人
- ・アイデアを形成する構想力、問題発見能力とその解決能力を持つ人

2. 入学前に身につけておいて欲しいこと

学士としての知識・能力、建築の専門的知識・技術及び外国語（英語）の能力が必要となります。

3. 入学者選抜の基本方針

一般選抜（筆答試験）では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、建築の専門科目、外国語科目（英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、建築の専門分野に関する知識・能力、外国語（英語）の能力、適性・意欲等を評価します。

社会人特別選抜では、口述試験を課すとともに、出身学校の成績、業績（業務）報告書及び研究（希望）計画書等も踏まえ、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、建築の専門分野に関する知識・能力、適性・意欲等を評価します。

外国人留学生特別選抜では、教育目標に掲げる人材を育成する上で必要となる、建築の専門科目、外国語科目（日本語又は英語）及び面接を課すとともに、出身学校の成績も踏まえ、建築の専門分野に関する知識・能力、外国語（日本語又は英語）の能力、適性・意欲等を評価します。

Ⅱ. 一般選抜及び社会人特別選抜にかかる共通事項

1. 募集要項に関する問い合わせ先及び出願書類等提出先

〒890-0065

鹿児島市郡元一丁目21番40号 鹿児島大学理工学研究科等研究科・工学系学務課大学院係

電話 (099)285-3057・8234 FAX (099)285-3410

E-mail: sedaigakuin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

2. 各専攻(プログラム)についての問い合わせ先

・理学専攻

数理情報科学プログラム	伊藤 稔	itoh@sci.kagoshima-u.ac.jp
物理・宇宙プログラム	廣井 政彦	hiro@sci.kagoshima-u.ac.jp
化学プログラム	伊東 祐二	yito@sci.kagoshima-u.ac.jp
生物学プログラム	内海 俊樹	uttan@sci.kagoshima-u.ac.jp
地球科学プログラム	山本 啓司	hyam@sci.kagoshima-u.ac.jp

・工学専攻

機械工学プログラム	上谷 俊平	kamitani@mech.kagoshima-u.ac.jp
電気電子工学プログラム	堀江 雄二	horie@eee.kagoshima-u.ac.jp
海洋土木工学プログラム	山城 徹	toru@oce.kagoshima-u.ac.jp
化学工学プログラム	二井 晋	niisus@cen.kagoshima-u.ac.jp
化学生命工学プログラム	隅田 泰生	ysuda@eng.kagoshima-u.ac.jp
情報・生体工学プログラム	王 鋼	gwang@ibe.kagoshima-u.ac.jp
建築学プログラム	二宮 秀典	nimiya@aae.kagoshima-u.ac.jp

※ 志願者は、願書提出前に希望する研究指導教員と連絡を取り、教育研究の内容などについて十分相談してください。

※ 現行の専攻と令和2年4月改組後の専攻については、表紙裏の「鹿児島大学大学院理工学研究科博士前期課程の改組について(お知らせ)」をご覧ください。

3. 障害のある入学志願者の事前相談

学校教育法施行令第22条の3に定める障害等（次表参照）のある志願者又は発達障害のある志願者で、その障害等の程度に応じ、受験上及び修学上の特別な配慮を必要とする者は、事前に当研究科と相談してください。

なお、補聴器、松葉杖、車椅子等を使用している場合も事前相談が必要です。

区 分	障 害 の 程 度
視 覚 障 害 者	両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のものうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 害 者	両耳の聴力レベルがおおむね60デジベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を理解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢 体 不 自 由 者	1 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないもののうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱 者	1 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの

(注) 学校教育法施行令第22条の3の規定に準拠した。

(1) 時 期

相談の内容によっては、本学の試験までに対応できず、特別な配慮が講じられないこともありますので、なるべく出願期間の数日前までに相談してください。

(2) 方 法

電話又は本学での相談いずれでもかまいませんが、次の事項等を記載した書類（様式任意）を提出していただく場合もあります。

- ① 志願する研究科の分野名、本人の氏名及び生年月日
- ② 障害の種類・程度（医師の診断書が必要な場合がある。）
- ③ 受験の際、特別な配慮を希望する事項及び内容
- ④ 大学等在学中にとられていた特別な配慮
- ⑤ 日常生活の状況
- ⑥ 本人の現住所、電話番号及び保護者の連絡先

4. 出願書類等に関する留意事項

- (1) 出願書類不備の場合は受理しません。記載事項に記入漏れ、誤記のないように十分注意してください。
- (2) 受理した出願書類等及び納入された検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還いたしません。
 - ① TOEIC・TOEFLスコア（原本）※一般選抜。
出願の際に返却を希望した場合（23, 36ページ参照）
 - ② 検定料
15ページ「5. 検定料の納入について」の(b)②のア.又はイ.の場合
- (3) 提出書類の記載事項が事実と相違していることが判明した場合には、入学を取り消すことがあります。
- (4) 出願後「連絡先住所」に変更があった場合には、速やかに連絡してください。

5. 検定料の納入について

(a) 払込方法

- ① 入学検定料払込書の研究科名、おところ、おなまえ（フリガナ）、電話番号を黒のボールペンで正確に記入すること。
- ② 郵便局の窓口で、出願期間初日の1週間前から出願までの間に払込んでください（払込みの際に別途払込手数料が必要です）。ただし、ATM（現金自動預入払出機）での払込みはできません。
- ③ 払込後、【振替払込受付証明書（お客さま用）】（日附印のないものは無効）を出願書類に添えて提出してください。なお、振替払込請求書兼受領証は各自で保管してください。

(b) 留意事項

- ① 検定料が払込まれていない場合、【振替払込受付証明書（お客さま用）】が出願書類に添えて提出されていない場合、【振替払込受付証明書（お客さま用）】に日附印がない場合は、出願書類は受理しません。
- ② 既納の検定料は次の場合を除き、いかなる理由があっても返還いたしません。
（返還額：30,000円から払込手数料を控除した額）
 - ア. 検定料を払込んだものの、出願しなかった場合（出願書類を提出しないまま受付期限が終了したり、書類不備等により出願書類が受理されなかった場合）。
 - イ. 誤って検定料を二重に払込んだ場合

6. 合格者発表

合格者の受験番号を下記の日時に工学部共通棟玄関前と理学部掲示板に掲示するとともに、合格者に合格通知書を送付します。また、鹿児島大学理工学研究科ホームページ (<http://grad.eng.kagoshima-u.ac.jp/>)

にも合格者の受験番号を掲載します。なお、電話等による可否の照会には応じません。

一般選抜(筆答試験)：令和2年3月3日(火)10時

社会人選抜：令和2年3月3日(火)10時

7. 入学手続

(1) 入学手続日

全選抜：令和2年3月13日(金)及び令和2年3月16日(月)

※ 令和2年3月14日(土)及び15日(日)は入学手続日ではありません。

※ 入学手続時に必要な事項については、令和2年2月下旬頃合格者に別途通知します。

(2) 受付時間

全選抜：9時～17時

郵送の場合は書留郵便で、封筒の表に「理工学研究科博士前期課程入学手続書類在中」と朱書きし、入学手続期間最終日17時必着とします。

(3) 提出書類

(ア) 入学料郵便振替払込受付証明書(お客さま用)

(イ) 宣誓書

(ウ) 在学保証書

(エ) 卒業証明書(4月1日(水)までに提出)

(オ) 成績証明書 他

(4) 納付金等(平成30年度実績)

入学料 282,000円

授業料 267,900円(535,800円(年額))

※納付金等改定が行われた場合は、改定時から新料金が適用されます。

(5) 既納の入学料は次の場合を除き、いかなる理由があっても返還できません。

(返還額：282,000円から払込手数料を控除した額)

(ア) 入学料を払込んだが、入学手続をしなかった場合

(イ) 入学料を誤って二重に払込んだ場合

8. 入学料免除

次に該当する者は、本人の申請により免除の対象となることがあります。

(1) 経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ学業が優秀と認められる者

(2) 次に掲げる事項のいずれかに該当する特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者

(ア) 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者(以下「学資負担者」という。)が死亡し、又は入学する者若しくはその学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

(イ) アに準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合

[注] 入学手続後に入学を辞退する場合、入学料免除の申請は無効となり、入学料を納入していただくことになります。

9. 入学料徴収猶予

次に該当する者は、徴収猶予の対象となることがあります。

(1) 経済的理由によって入学料の納付期限までに納付が困難であり、かつ学業が優秀と認められる者

(2) 入学前1年以内において、入学する者の学資負担者が死亡し、または入学する者若しくはその学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに納付が困難であると認められる場合

(3) その他やむを得ない事情があると認められる場合

[注] 入学手続後に入学を辞退する場合、入学料徴収猶予の申請は無効となり、入学料を納入していただくことになります。

10. 授業料免除

次に該当する者は、本人の申請により免除の対象となることがあります。

- (1) 経済的理由により授業料の納入が困難であり、かつ学業が優秀と認められる者
- (2) 授業料の各期ごとの納期前6月以内において、本学に入学する者の学資負担者が死亡し、又は本学に入学する者もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納入が著しく困難であると認められる者

11. 奨学金

独立行政法人日本学生支援機構奨学金の貸与を希望する者は、独立行政法人日本学生支援機構奨学金規定等により選考のうえ、奨学生に採用されることがあります。理工学研究科では、各専攻ごとに定められた基準による推薦順位も考慮し、独立行政法人日本学生支援機構に推薦します。

12. 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例について

近年、大学院における社会人研究者、技術者等の再教育への要望が高まっていますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人研究者、技術者等はその勤務を離れて修学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されがちです。

このため、大学院設置基準第14条では、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育を行うことができる。」旨規定され、社会人研究者、技術者等の修学に特別措置を行うことができるよう配慮がなされています。

これを踏まえ、理工学研究科では、大学院での履修を希望する社会人に対し、同条に定める特例による教育を実施しています。

13. 長期履修学生制度について

理工学研究科には、長期履修学生制度があります。これは職業を有している等の事情により、標準修業年限2年で修了することが困難な大学院生が、標準年限を超えて一定の期間(3年または4年)にわたり、計画的に履修し課程を修了することをあらかじめ申請し、その計画的な履修を認定する制度です。

なお、長期履修学生の授業料年額は、一般学生が標準修業年限在学した場合の授業料総額を、長期履修学生として許可された在学年限で除した金額となります。

希望者には入学手続の際に必要な書類を渡しますので、指導予定教員と相談のうえ理工学研究科等研究科・工学系学務課大学院係へお越しください。

14. 個人情報の取扱いについて

- (1) 個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人鹿児島大学が保有する個人情報の保護管理に関する規則」に基づいて取り扱います。
- (2) 出願にあたっては知り得た氏名、住所その他の個人情報及び入学者選抜に用いた試験成績の個人情報については、本学入学者選抜・合格者発表、追跡調査及びこれらに付随する事項並びに入学後の学務業務における学籍・成績管理、修学指導、授業料免除・奨学金の審査及び授業料の債権管理等を行うためのみ利用し、他の目的には利用しません。

15. その他

- (1) 受験の際は、必ず受験票を持参してください。
- (2) 出願手続後の提出書類の内容変更は認められません。
- (3) 入学試験に関する照会は、送り先住所・氏名を記入し、所要の切手を貼付した返信用封筒を同封し、できるだけ郵送にて行ってください。
- (4) 募集要項の郵送を求める時は、封筒表面に「大学院博士前期課程学生募集要項請求」と朱書き

し、返信用封筒（角形 2 号，24cm×33.2cm）に依頼者の郵便番号，住所，氏名を明記の上，390 円（速達の場合は780円）切手(※)を貼ったものを同封してください。※郵便料金の改定があった場合は，改定後の郵便料金分の切手が必要です。

入試情報開示

試験問題，配点及び正解・解答例(又は出題の意図)の開示

試験問題，配点及び正解・解答例は，原則，請求に基づき開示します。

なお，正解・解答例については，「例示」であり，複数の正解・解答例があり得ます。

また，正解・解答例に代えて，出題の意図を開示する場合もあります。

(大学院系の窓口では，過去 3 年分(平成29年度入試～平成31年度入試)を開示します。「配点，正解・解答例(又は出題の意図)は閲覧のみできます。)

入試成績に関する個人情報の開示

令和 2 年度入学者選抜に係る受験者の個人成績を次により開示します。

1. 受験者本人からの請求に基づき，当該受験者の入学試験における個々の科目の得点または評価と総合得点並びに合否の別を開示します。
2. 入試成績の開示期間は合格者発表後 2 か月間です。(受付：平日の 9 時から16時)
3. 入試成績の開示は，書面で行います。
4. 請求方法は，次ページ様式「大学院入試情報開示請求書」と「鹿児島大学理工学研究科（博士前期課程）受験票」を添えて，下記に請求してください。

なお，郵送による場合は上記に，簡易書留郵便料に相当する切手を貼った返信用封筒を同封して，簡易書留郵便により請求してください。

請求先 〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番40号
鹿児島大学理工学研究科等研究科・工学系学務課大学院係

大学院入試情報開示請求書

令和 年 月 日

鹿児島大学大学院
理工学研究科長 殿

請求者 住所 _____
(郵送請求の場合記入してください。)

電話番号 _____
(郵送請求の場合記入してください。)

氏名 _____

選抜の方法（該当選抜等に○を付し，所要事項を記載
してください）

- ・ 一般選抜（筆答試験（第2次募集））
- ・ 社会人特別選抜（第2次募集）
- ・ 外国人留学生特別選抜（第2次募集）

専攻 _____

受験番号 _____

私の入試成績について，情報の開示を請求します。

注意事項

1. 請求者は，本研究科の受験者本人に限ります。（代理人による請求は認めません。）
2. 個々の科目の得点または評価と総合得点並びに可否の別を開示します。
3. 開示期間は，合格者発表後2か月間とし，開示請求は平日の9時から16時までの間受け付けますので，受験票を添えて請求してください。
4. 郵送による請求の場合は，必ず住所及び電話番号を記入してください。連絡が取れないと開示できない場合があります。また，郵送の場合は，入試情報開示請求書，受験票及び簡易書留郵便料に相当する切手を貼った返信用封筒を同封した簡易書留郵便により理工学研究科等研究科・工学系学務課大学院係に請求してください。

Ⅲ. 一般選抜

一般選抜は、筆答試験により実施します。詳細は25ページの「7. 入学者の選抜方法」を参照してください。

1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び令和2年(2020年)3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び令和2年(2020年)3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年(2020年)3月までに修了見込みの者(注)
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年(2020年)3月までに修了見込みの者(注)
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和2年(2020年)3月までに修了見込みの者(注)
- (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者(注)
- (7) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年2月7日文部省告示第5号参照)(注)
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22才に達したもの(令和2年(2020年)4月1日時点で22才に達する者を含む)
出願資格(8)は、次に該当する者とします。

科学・技術関係の分野の業務に従事し、学習歴及び実務経験を証明する書類により、本研究科が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22才に達したものの。

(令和2年(2020年)4月1日時点で22才に達する者を含みます)

(注) 出願資格(3)～(7)で出願する場合は、事前にお問い合わせください。

(14ページ, 「1. 募集要項に関する問い合わせ先および出願書類等提出先」を参照)

2. 出願資格認定審査

出願資格が(8)により出願する者は、出願に先立って次の(a), (b), (c)の書類を申請期間内に本研究科に提出してください。出願資格の認定審査を受けなければなりません。

- (a) 本研究科所定の「入学試験出願資格認定審査調書」(別紙様式2)
- (b) 学習歴を証明する書類(卒業証明書・成績証明書等個人の経歴に応じたもの)

- (c) 実務経験等を証明する書類（職務・研修歴・研究歴等実務経験及び国際的活動経験等を証明する書類）

○出願資格認定審査の申請期間

令和元年11月19日(火)～令和元年11月20日(水) 各日 9～17時

※ 郵送の場合は、書留郵便で、封筒の表に「理工学研究科博士前期課程出願資格認定審査書類 在中」と朱書きし、申請期間最終日17時必着とします。

○出願資格認定審査の結果通知

下記日付で本人あてに通知します。

令和元年12月18日(水)

3. 専攻別募集人員

【第2次募集】

専攻名等		募集人員
		筆答試験
理学専攻	数理情報科学プログラム	各プログラム とも 若干人
	物理・宇宙プログラム	
	化学プログラム	
	生物学プログラム	
	地球科学プログラム	
工学専攻	機械工学プログラム	各プログラム とも 若干人
	電気電子工学プログラム	
	海洋土木工学プログラム	
	化学工学プログラム	
	化学生命工学プログラム	
	情報・生体工学プログラム	
	建築学プログラム	

4. 出願期間

○出願期間

令和2年1月7日(火)～令和2年1月9日(木) 各日 9～17時

5. 出願書類等

志願者は、下表の書類を一括して、出願期間に提出してください。（提出先：14ページ参照）

※ 郵送の場合は、書留郵便で、封筒の表に「理工学研究科博士前期課程願書在中」と朱書きし、申請期間最終日17時必着とします。

出 願 書 類 等		出願資格別	注 意 事 項		
1	入 学 志 願 票 受 験 票 写 真 票 履 歴 票 書	全志願者	本研究科所定の用紙（別紙様式1）に必要事項を記入してください。出願前3ヶ月以内に撮影した上半身・脱帽・正面向きの写真（縦4cm×横3cm）を所定欄に貼付してください。		
2	卒 業（見込）証 明 書 修 了（見込）証 明 書	出願資格（8）を除く	最終出身学校等が発行したもの。		
		出願資格（8）該当者	最終出身学校等が発行した卒業（見込又は修了）証明書。 【資格審査時に提出】		
3	学位授与を申請する旨の証明書	出願資格（2）該当者	短期大学学長又は高等専門学校長等が証明したもの（取得した者は学位記の（写））		
4	成 績 証 明 書	出願資格（8）を除く	最終出身学校等が発行し、厳封したもの。ただし証明書自動発行機で発行されたものは厳封の必要はありません。 ※ 高等専門学校から、本学の学部へ編入学し卒業した（又は見込）の者は、「高専」「学部」両方の成績証明書を提出すること。 ※ 高等専門学校専攻科の修了（見込）者は、「本科」「専攻科」両方の成績証明書を提出すること。		
		出願資格（8）該当者	最終出身学校等が発行し、厳封したもの。ただし証明書自動発行機で発行されたものは厳封の必要はありません。 【資格審査時に提出】		
5	TOEIC スコア又は TOEFL スコア (平成29年4月1日以降受験したもの)	原則として 全志願者	受験する専攻（プログラム）毎にスコア提出の有無ならびに種類が違いますので、必ず、24ページ「一般選抜（筆答試験）の外国語について」を確認したうえで、提出してください。		
			スコアの種類		
			TOEIC	TOEIC L&R	TOEIC Listening & Reading OFFICIAL SCORE CERTIFICATE
			公 開	TOEIC S&W	TOEIC Speaking & Writing OFFICIAL SCORE CERTIFICATE
			TOEIC-IP	TOEIC Listening & Reading Institutional Program (IP) Score Report	
			TOEFL-iBT	TOEFL Internet-based Test Taker Score Report	
TOEFL-ITP	TOEFL ITP Score Report				
			※ スコアの種類により、スコアに有効期限があるものや、スコアを証明する書類の再発行期間が定められているものがあるため、各自で必ず事前に確認しておくこと。		
6	住 民 票（写）又は パ ス ポー ト（写）	出願者のうち、 日本国籍をも たないもの	市区町村長の交付する在留資格が記載された住民票の写し（日本国内在住の外国人の場合のみ）又はパスポートの写し（「受験」のために入国する場合）を提出してください。		
7	検 定 料	全志願者	30,000円を検定料払込書（巻末）により、出願期間初日の1週間前から出願までの間に郵便局から払込み後（払込みの際に別途払込手数料が必要です）、出願書類に【振替払込受付証明書（お客さま用）】を添えて提出すること。ただし、日本政府（文部科学省）国費外国人留学生の場合は不要です。		
8	返 信 用 封 筒	全志願者	〔受験票等送付用〕（1枚）（出願書類を持参するものは不要） 市販の封筒（長形3号，12cm×23.5cm）に志願者の住所・氏名・郵便番号を記入し374円切手（※）を貼付したもの。国外の場合は、航空郵便物25グラム相当の国際返信切手を同封すること。※郵便料金の改定があった場合は、改定後の郵便料金分の切手が必要です。		
			〔合格通知用・入学手続書類送付用〕（2枚） 市販の封筒（角形2号，24cm×33.2cm）に志願者の住所・氏名・郵便番号を記入したもの。封筒には切手不要。		

（注）出願後、TOEIC・TOEFLスコア（原本）の返却を希望する者は、次の事項を記載した紙（A4判・様式任意）を、出願時に必ず添付すること。なお、郵送による返却を希望する者は、所要の切手を貼付した返信用封筒も同封すること。

- ・志願者氏名
- ・志願するプログラム名
- ・返却を希望する旨の文章（試験当日に追加で提出するスコア（原本）の返却も希望する場合は、その旨も記載すること）

※スコアの返却は、当該入試合格者発表日以降、速やかに行う。

6. 一般選抜(筆答試験)の外国語について

「外国語」は、「試験初日の外国語(英語)試験」又は「TOEIC・TOEFL スコア」により評価します。

「試験初日の外国語(英語)試験」の実施及び「TOEIC・TOEFL スコア」の提出は、下表のとおりです。

専攻等名		試験初日の 外国語 (英語)試験 (○=実施する ×=実施しない)	出願時の スコア提出 (○=必要 ×=不要)	T O E I C ・ T O E F L ス コ ア					出願時に左 記のスコア を提出後、 新たにスコ ア(原本)の提 出を希望する 場合の提出 日時	備 考
				提出可能なスコアの種類 (平成29年4月1日以降に受験したスコアに限る) (○=いずれかの「原本」を提出可(複数の提出可) ×=出願書類として認めない)						
				TOEIC公開		TOEIC - IP	TOEFL - iBT	TOEFL - ITP		
				TOEIC L&R	TOEIC S&W					
理 学 専 攻	数理情報科学プログラム	○ (出願時に選択(複数選択可))	○	○	×	○	×	試験初日の 16:10～16:30	「複数のスコアが提出された場合」又は「試験初日の外国語(英語)試験を受験し、かつ、スコアを提出した場合」、最も優れた評価点を利用する。	
	物理・宇宙プログラム	×	○	○	×	×	○	×	試験初日の 15:10～15:30	複数のスコアが提出された場合は、最も優れた評価点を利用する。
	化学プログラム	○ (出願時に選択)	○	×	○ (備考の1. を参照)	○	×	試験初日の 15:10～15:30	1. 本理学部内で受験した者に限り提出可。 2. 複数のスコアが提出された場合は、最も優れた評価点を利用する。	
	生物学プログラム	○ (出願時に選択)	○	×	○ (備考の1. を参照)	○	×	試験初日の 15:10～15:30	1. 本理学部内で受験した者に限り提出可。 2. 複数のスコアが提出された場合は、最も優れた評価点を利用する。	
	地球科学プログラム	○ (出願時に選択)	○	×	○ (備考の1. を参照)	○	×	試験初日の 15:10～15:30	1. 本理学部内で受験した者に限り提出可。 2. 複数のスコアが提出された場合は、最も優れた評価点を利用する。	
工 学 専 攻	機械工学プログラム	×	○	○	×	×	○	×	試験初日の 15:10～15:30	複数のスコアが提出された場合は、最も優れた評価点を利用する。
	電気電子工学プログラム	×	○	○	×	×	○	×	試験初日の 16:10～16:30	複数のスコアが提出された場合は、最も優れた評価点を利用する。
	海洋土木工学プログラム	×	○	○	○	○ (備考の1. を参照)	○	×	試験初日の 16:20～16:40	1. 本工学部内で受験した、本学の海洋土木工学科の学生に限り提出可。 2. 複数のスコアが提出された場合は、最も優れた評価点を利用する。
	化学工学プログラム	×	○	○	×	×	○	×	試験初日の 16:10～16:30	複数のスコアが提出された場合は、最も優れた評価点を利用する。
	化学生命工学プログラム	×	○	○	×	×	○	×	試験初日の 16:10～16:30	複数のスコアが提出された場合は、最も優れた評価点を利用する。
	情報・生体工学プログラム	×	○	○	×	○ (備考の1. を参照)	○	○ (備考の1. を参照)	試験初日の 14:40～15:00	1. 本工学部内で受験した、本学の情報生体システム工学科の学生に限り提出可。 2. 複数のスコアが提出された場合は、最も優れた評価点を利用する。
	建築学プログラム	×	○	○	×	○ (備考の1. を参照)	○	×	試験初日の 16:10～16:30	1. 本工学部内で受験した、本学の建築学科の学生に限り提出可。 2. 複数のスコアが提出された場合は、最も優れた評価点を利用する。

7. 入学者の選抜方法

第2次募集は、「筆答試験」により選考を行います。

「筆答試験」

学力試験、面接試験及び出願書類等により合格者を決定します。

なお、専攻が課す学力試験(専門科目、外国語)及び面接試験のうち、1つでも受験しなかった者は失格となり、合否判定の対象者とはなりません。

8. 試験科目・日時及び試験場

筆答試験

(a) 学力試験の期日及び試験場

専攻名等		期 日	試 験 場
理 学 専 攻	数理情報科学プログラム	令和2年 2月17日(月)	鹿児島大学理学部
	物理・宇宙プログラム		
	化学プログラム		
	生物学プログラム		
	地球科学プログラム		
工 学 専 攻	機械工学プログラム		鹿児島大学工学部
	電気電子工学プログラム		
	海洋土木工学プログラム		
	化学工学プログラム		
	化学生命工学プログラム		
	情報・生体工学プログラム		
	建築学プログラム		

- * 1. 学部3年次生を対象とする選抜の第2次募集は行いません。
- * 2. 日時、試験場等の詳細は、令和2年2月14日(金)14時に工学部共通棟玄関前と理学部掲示板に掲示します。
- * 3. 原則として、追試験は行いません。

(b) 学力試験の試験時間と試験科目

専攻名等		時刻											
		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00			
理 学 専 攻	数理情報科学プログラム		9:40 集合	外国語(英語) ※1 10:00～11:30			数学(出題数は4問で、全問解答する。) 13:00～16:00		※13				
	物理・宇宙プログラム					12:40 集合	専門科目 ※2 13:00～15:00	※13					
	化学プログラム		9:40 集合	外国語(英語) ※1 10:00～11:30		12:40 集合	化学 ※3 13:00～15:00	※13					
	生物学プログラム		9:40 集合	外国語(英語) ※1 10:00～11:30		12:40 集合	生物学 ※4 13:00～15:00	※13					
	地球科学プログラム		9:40 集合	外国語(英語) ※1 10:00～11:30			地球科学 ※5 13:00～15:00	※13					
工 学 専 攻	機械工学プログラム		10:20 集合	応用数学 10:40～12:10			専門科目 ※6 13:00～15:00	※13					
	電気電子工学プログラム		10:20 集合	応用数学 10:40～12:10			電気磁気学 13:00～14:20	電気回路学 14:40～16:00	※13				
	海洋土木工学プログラム		10:20 集合	応用数学 10:40～11:40			専門科目 ※7 13:00～16:10		※13				
	化学工学プログラム					12:40 集合	専門科目 ※8 13:00～16:00		※13				
	化学生命工学プログラム					12:40 集合	専門科目 ※9 13:00～16:00		※13				
	情報・生体工学プログラム		10:20 集合	応用数学 ※10 10:40～12:10			専門科目 ※11 13:00～14:30	※13					
	建築学プログラム					12:40 集合	専門科目 ※12 13:00～16:00		※13				

☆各試験科目等の試験開始後30分を超えて遅刻したときは、その科目等の受験を認めません。

☆関数電卓を使用することができる専攻は次のとおりです。

海洋土木工学プログラム、建築学プログラム … 各自持参してください。

化学工学プログラム … 持ち込みはできませんが、試験時に貸与します。

【表中の※印について】

※1 数理情報科学プログラム 化学プログラム、生物学 プログラム及び地球科学 プログラム	外国語(英語): 数理情報科学プログラム … 英和辞書持ち込み可。ただし、電子辞書は持ち込み不可。 化学プログラム、生物学プログラム及び地球科学プログラム … 英和辞書・英英辞書持ち込み可。ただし、電子辞書は持ち込み不可。
※2 物理・宇宙プログラム	基本的な物理科目(物理数学、力学、電磁気学、熱力学及び量子力学の範囲)から出題し、全問解答する。
※3 化学プログラム	次の問題5問から、出願時に2問を選択。 「量子化学・物理化学」「有機化学」「生物化学」「無機化学」「分析化学」 詳細については、次のホームページを参照すること。 http://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/examinee_dir/daigakuin.html
※4 生物学プログラム	次の問題5問から、出願時に2問を選択。 「分子生物学・植物生理学」「細胞生物学・発生生物学」「動物生理学」「生態学」「系統分類学・進化生物学」
※5 地球科学プログラム	「地質科学」「地球物理学」の2科目全4問の中から、2問を選択。
※6 機械工学プログラム	「材料力学」「機械力学」「工業熱力学」「流体力学」「機械材料学」「制御工学」の6科目の中から、出願時に2科目を選択。
※7 海洋土木工学プログラム	「海洋物理学」「水理学」「構造力学」「土木材料・コンクリート構造工学」「土質力学」の5科目の中から、問題を見て3科目を選択。
※8 化学工学プログラム	移動現象論、化工熱力学、単位操作、反応工学、無機化学及び無機材料化学
※9 化学生命工学プログラム	「物理化学」「分析化学」「有機化学」「生物化学」「高分子化学」の5科目の中から、出願時に3科目を選択。
※10 情報・生体工学プログラム	応用数学(線形代数、微分積分、微分方程式)。
※11 情報・生体工学プログラム	「情報基礎(情報理論、論理回路)」「プログラミング基礎(C言語)」「電気回路基礎」の3科目の中から、問題を見て1科目を選択。
※12 建築学プログラム	計画系3科目(建築計画、都市計画、建築史)、環境系2科目(環境工学、建築設備)、構造系4科目(構造力学、建築材料、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造)の合計9科目の中から3科目を、出願時に選択。 ただし、複数の系から選択し、1つの系からは2科目までとすること。
※13 新たなTOEIC・TOEFLスコア (原本)の提出 (地球科学プログラムを除く)	14:40～15:00(情報・生体工学プログラム) 15:10～15:30(機械工学プログラム、物理・宇宙プログラム、化学プログラム、生物学プログラム及び地球科学プログラム) 16:10～16:30(数理情報科学プログラム、電気電子工学プログラム、化学工学プログラム、化学生命工学プログラム、及び建築学プログラム) 16:20～16:40(海洋土木工学プログラム) …希望する者は、新たなTOEIC、TOEFLのスコア(原本)を提出する。詳細については、25ページに記載してあるので、必ず確認すること。

(c) 学力試験科目の配点

専攻名等		専門科目	外国語	総点
理学専攻	数理情報科学プログラム	400	100	500
	物理・宇宙プログラム	400	100	500
	化学プログラム	200	100	300
	生物学プログラム	200	100	300
	地球科学プログラム	200	100	300
工学専攻	機械工学プログラム	300	100	400
	電気電子工学プログラム	300	100	400
	海洋土木工学プログラム	400	100	500
	化学工学プログラム	300	100	400
	化学生命工学プログラム	300	100	400
	情報・生体工学プログラム	300	100	400
	建築学プログラム	450	100	550

(d) 面接試験

志望動機，志望研究分野，大学院で学びたいこと等について1人10分程度の個人面接を行います。

(e) 面接試験の日時及び試験場

専攻名等		期 日	試 験 場
理学専攻	数理情報科学プログラム	令和2年 2月18日(火) 受験者集合時刻 8:40 試験開始時刻 9:00	鹿児島大学理学部
	物理・宇宙プログラム		
	化学プログラム		
	生物学プログラム		
	地球科学プログラム		
工学専攻	機械工学プログラム		鹿児島大学工学部
	電気電子工学プログラム		
	海洋土木工学プログラム		
	化学工学プログラム		
	化学生命工学プログラム		
	情報・生体工学プログラム		
	建築学プログラム		

* 1. 試験開始後30分を超えて遅刻したときは，受験を認めません。

* 2. 日時，試験場等の詳細は，令和2年2月14日（金）14時に工学部共通棟玄関前と理学部掲示板に掲示します。

* 3. 受験者数によっては，面接日並びに開始時間を変更する場合があります。その場合は，事前に指示します。

* 4. 原則として，追試験は行いません。

(f) 合否判定基準

学力試験総合得点により順位付けし，面接試験及び出願書類により総合的に合格者を決定します。

学力試験総合得点が高点の場合は，次に示す科目等の優先順位により順位付けを行います。

1. 専門科目の得点 2. 外国語の得点 3. 面接試験の評価

なお，専攻が課す学力試験(専門科目，外国語)及び面接試験のうち，1つでも受験しなかった者は失格となり，合否判定の対象者とはなりません。また，学力試験科目において，得点率が次の1つでも下回った者は，不合格となります。

専門科目：合計の50%，外国語：40%，総点：50%

IV. 社会人特別選抜

1. 趣 旨

急激な技術革新の進展と科学技術水準の向上、並びに学校教育内容の高度化にともない、研究・開発・教育等に携わる社会人研究者や学校教育者の高度化再教育は、企業や地方自治体の活性化、並びに初・中等学校教育の質の向上のために必要となっています。このような要請に応えて、積極的に社会人並びに教職員の大学院への受入れを図り、同時に豊富な経験を有する社会人の受入れによって大学院の教育・研究を活性化させることを目的としています。

また、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を適用し、講義を夜間の時間帯にも開講して社会人学生の受講に便宜を図っています。

2. 出願資格

研究機関、教育機関、企業等に勤務しており、入学後もその身分を有し、所属長または、職場において本人を熟知し指導的立場にある者の受験承諾を受けた者で、次の各号のいずれかに該当するもの

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び令和2年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者（注）
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者（注）
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者（注）
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者（注）
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和29年2月7日文部省告示第5号参照）（注）
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22才に達したもの（令和2年4月1日現在で22才に達するものを含む）

出願資格(8)は、次に該当する者とします。

科学・技術関係の分野の業務に従事し、学習歴及び実務経験を証明する書類により、本研究科が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22才に達したものの。

（令和2年4月1日現在で22才に達するものを含みます）

（注）出願資格(3)～(7)で出願する場合は、事前にお問合わせください（問合せ先：14ページ参照）。

3. 出願資格認定審査

出願資格が（８）により出願を希望する者は、出願に先立って次の(a)，(b)，(c)の書類を申請期間内に本研究科に提出してください。出願資格の認定審査を受けなければなりません。

- (a) 本研究科所定の「入学試験出願資格認定審査調書」（別紙様式２）
- (b) 学習歴を証明する書類（卒業証明書・成績証明書等個人の経歴に応じたもの）
- (c) 実務経験等を証明する書類（職歴・研修歴・研究歴等実務経験および国際的活動経験等を証明する書類）

○出願資格認定審査の申請期間

令和元年11月19日（火）～令和元年11月20日（水） 各日 9～17時

※ 郵送の場合は、書留郵便で、封筒の表に「理工学研究科博士前期課程出願資格認定審査書類 在中」と朱書きし、申請期間最終日17時必着とします。

○出願資格認定審査の結果通知

下記日付で本人あてに通知します。

令和元年12月18日（水）

4. 募集人員

専攻名等		募集人員
理学専攻	数理情報科学プログラム	各プログラム とも 若干人
	物理・宇宙プログラム	
	化学プログラム	
	生物学プログラム	
	地球科学プログラム	
工学専攻	機械工学プログラム	各プログラム とも 若干人
	電気電子工学プログラム	
	海洋土木工学プログラム	
	化学工学プログラム	
	化学生命工学プログラム	
	情報・生体工学プログラム	
	建築学プログラム	

5. 出願期間

○出願期間

令和2年1月7日（火）～令和2年1月9日（木） 各日 9～17時

※ 郵送の場合は、書留郵便で、封筒の表に「理工学研究科博士前期課程願書在中」と朱書きし、申請期間最終日17時必着とします。

6. 出願書類等

志願者は、下表の書類を一括して、次の期間に提出してください。

出 願 書 類 等		出願資格別	注 意 事 項
1	入 学 志 願 票 受 験 票 写 真 票 履 歴 書	全志願者	本研究科所定の用紙(別紙様式1)に必要な事項を記入してください。 出願前3ヶ月以内に撮影した上半身・脱帽・正面向きの写真(縦4cm×横3cm)を所定欄に貼付してください。
2	卒 業 証 明 書 修 了 証 明 書	出願資格 (8)を除く	最終出身学校等が発行した卒業または修了証明書。
		出願資格 (8)該当者	最終出身学校等が発行した卒業または修了証明書。 【資格審査時に提出】
3	成 績 証 明 書	出願資格 (8)を除く	最終出身学校等が発行し、厳封したもの。ただし、証明書自動発行機で発行されたものは、厳封の必要はありません。 ※高等専門学校から、本学の学部へ編入学し卒業した(又は見込)の者は、「高専」「学部」両方の成績証明書を提出すること。 ※高等専門学校専攻科の修了(見込)の者は、「本科」「専攻科」両方の成績証明書を提出すること。
		出願資格 (8)該当者	最終出身学校等が発行し、厳封したもの。 【資格審査時に提出】ただし、証明書自動発行機で発行されたものは、厳封の必要はありません。
4	受 験 承 諾 書	全志願者	本研究科所定の用紙(別紙様式3)により、勤務先の所属長等が記入したもの。
5	研究(希望)計画書	全志願者	本研究科所定の用紙(別紙様式4)に、希望する研究テーマまたは分野について研究計画等を記入してください。
6	業績(業務)報告書	全志願者	本研究科所定の用紙(別紙様式5-1, 5-2)により、勤務内容、著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許及び実用新案等の研究活動または教育活動状況を示すものを記入してください。
7	入 学 検 定 料	全志願者	30,000円を検定料払込書(巻末)により、出願期間初日の1週間前から出願までの間に郵便局から払込み後(払込みの際に別途払込手数料が必要です)、出願書類に【振替払込受付証明書(お客さま用)】を添えて提出すること。
8	返 信 用 封 筒	全志願者	〔受験票等送付用〕(1枚)(出願書類を持参する者は不要) 市販の封筒(長形3号 12cm×23.5cm)に出願者の住所・氏名・郵便番号を記入し374円切手(※)を貼付したもの。国外の場合は、航空郵便物25グラム相当の国際返信切手を同封すること。※郵便料金の改定があった場合は、改定後の郵便料金分の切手が必要です。
			〔合格通知用・入学手続書類送付用〕(2枚) 市販の封筒(角形2号 24cm×33.2cm)に出願者の住所・氏名・郵便番号を記入したもの。封筒には切手不要。

7. 入学者の選抜方法

(1) 選考は、口述試験及び書類審査によって行います。

評価は、「A」「B」「C」の3段階で行いますが、口述試験・書類審査のうち1つでも「C」がある場合、不合格となります。

(2) 口述試験は、業績（業務）報告書及び研究（希望）計画書等について行います。

(3) 口述試験の日時及び試験場

専攻名等		期 日	試 験 場
理学専攻	数 理 情 報 科 学 プ ロ グ ラ ム	令和2年 2月18日（火） 受験者集合時刻 12：40 試験開始時刻 13：00	鹿児島大学理学部
	物 理 ・ 宇 宙 プ ロ グ ラ ム		
	化 学 プ ロ グ ラ ム		
	生 物 学 プ ロ グ ラ ム		
	地 球 科 学 プ ロ グ ラ ム		
工学専攻	機 械 工 学 プ ロ グ ラ ム		鹿児島大学工学部
	電 気 電 子 工 学 プ ロ グ ラ ム		
	海 洋 土 木 工 学 プ ロ グ ラ ム		
	化 学 工 学 プ ロ グ ラ ム		
	化 学 生 命 工 学 プ ロ グ ラ ム		
	情 報 ・ 生 体 工 学 プ ロ グ ラ ム		
	建 築 学 プ ロ グ ラ ム		

* 1. 試験開始後30分を超えて遅刻したときは、受験を認めません。

* 2. 日時、試験場等の詳細は、下記の日時に工学部共通棟玄関前と理学部掲示板に掲示します。

令和2年2月14日（金）14時

* 3. 受験者数によっては、期日を変更する場合があります。その場合は、事前に指示します。

* 4. 原則として、追試験は行いません。

V. 外国人留学生特別選抜

1. 募集人員

専攻名等		募集人員
理学専攻	数理情報科学プログラム	各プログラム とも 若干人
	物理・宇宙プログラム	
	化学プログラム	
	生物学プログラム	
	地球科学プログラム	
工学専攻	機械工学プログラム	各プログラム とも 若干人
	電気電子工学プログラム	
	海洋土木工学プログラム	
	化学工学プログラム	
	化学生命工学プログラム	
	情報・生体工学プログラム	
	建築学プログラム	

2. 出願資格

日本国籍を有しない者で、次の要件を満たす者とします。

- (1) 日本語が理解できる者。以下の日本留学試験（日本語）又は日本語能力試験のスコア等を取得する必要がある（海洋土木工学専攻、又は地球環境科学専攻へ出願する場合はこのスコア等の取得は必要ない）。ただし、出願資格(2)の①に該当する場合は日本留学試験（日本語）、又は日本語能力試験のスコア等の取得は必要ない。

日本留学試験：日本語220点以上（記述を除く）、日本語記述30点以上

日本語能力試験：N1又はN2

※ 出願書類として提出可能な「日本留学試験のスコア」又は「日本語能力試験の認定」を証明する書類は、2017年以降に受験した1回の成績のものに限る。

- (2) 次のいずれかに該当する者

- ① 日本の大学を卒業した者及び令和2年（2020年）3月までに卒業見込みの者
- ② 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年（2020年）3月までに修了見込みの者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年（2020年）3月までに修了見込みの者
- ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和2年（2020年）3月までに修了見込みの者
- ⑤ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ⑥ 外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得した者であると本研究科において認めた者
- ⑦ 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22才に達したもの（令和2年（2020年）4月1日時点で22才に達するものを含む）
出願資格⑦は、次に該当する者とする。

科学・技術関係の分野の業務に従事し、学習歴及び実務経験を証明する書類により、本研究科が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和2年（2020年）4月1日時点で22才に達したものの。

V. APPLICATION PROCEDURES FOR INTERNATIONAL STUDENTS SPECIAL ADMISSIONS

1. Admission Capacity

A limited number of students will be accepted into each program given below.

Department of Science

- Mathematics and Informatics Program
- Physics and Astronomy Program
- Chemistry Program
- Biology Program
- Earth Science Program

Department of Engineering

- Mechanical Engineering Program
- Electrical and Electronics Engineering Program
- Ocean Civil Engineering Program
- Chemical Engineering Program
- Chemistry and Biotechnology Program
- Information Science and Biomedical Engineering Program
- Architecture and Architectural Engineering Program

2. Qualification for Application

Applicants should not hold Japanese nationality and must satisfy the next conditions.

(1) Those who understand Japanese.

You are required to submit the scores of the Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU) or Japanese-Language Proficiency Test (JLPT) listed below. However, if you apply for the Ocean Civil Engineering or Earth and Environmental Science course, or if your application status belongs to (2)- ①, such scores are not required.

Examination for Japanese University Admission for International

Students (EJU): a score of 220 or above on the Japanese proficiency section (excluding the written examination) and a score of 30 or above on the written examination

Japanese-Language Proficiency Test (JLPT): N1 or N2

※ Any document verifying EJU the score or JLPT the certification included with your application documents must reflect the results of an examination taken after January 1, 2017.

(2) Those who must belong to one of the following categories.

- ① Those who have already graduated, or are expected to graduate from Japanese university by the end of March, 2020.
- ② Those who have been formally educated for 16 years in countries outside Japan, or are expected to graduate by the end of March, 2020.
- ③ Those who while residing in Japan have completed or are expected to complete by the end of March 2020 at least 16 years of formal education through correspondence courses offered by accredited foreign educational institutions outside Japan.
- ④ Those who while residing in Japan have completed or are expected to complete by the end of March 2020 undergraduate studies at a foreign college or university located in Japan (after 16 years of formal education under the educational system of that foreign country), which has been accredited by the educational system of that particular country and is appointed by the Japanese Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology.
- ⑤ Those who have completed a specialization course in a college after it has been appointed by the Japanese Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology (applicants must complete the minimum required 4 years of study and satisfy other standards stipulated by the Japanese Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology).
- ⑥ Those who have completed 15 years course of school education in foreign country, and been admitted by the Graduate School of Science and Engineering, Kagoshima University to obtain sufficient credits with excellent score.
- ⑦ Those who are approved for the achievements of academic and professional activities according to the procedures of judging by the Graduate School of Science and Engineering, Kagoshima University, to have academic standard, equivalent to or above of the university graduate, and 22 years old or over at the time of April, 2020. [See Note 1]

Note 1: Qualification ⑦ can be applied for those who have been engaged the work in the field of science or engineering, and are approved by the Graduate School of Science and Engineering, Kagoshima University, to have academic standard, equivalent to or above of the university graduate from the judgment due to the documents about educational background and professional carrier, and of age 22 years or more by April 1, 2020.

3. 出願資格認定審査

出願資格が⑥、⑦により出願する者は、出願に先立って次の(a)、(b)、(c)の書類を申請期間内に本研究科に提出してください。出願資格の審査を受けなければなりません。

- (a) 本研究科所定の「入学試験出願資格認定審査調書」(別紙様式7-1～7-4)
- (b) 学習歴を証明する書類(卒業証明書・成績証明書等個人の経歴に応じたもの)
- (c) 実務経験等を証明する書類(職歴・研修歴・研究歴等実務経験および国際的活動経験等を証明する書類)

出願資格認定審査

(1) 申請期間

令和元年11月19日(火)～令和元年11月20日(水)

(a) 受付時間は9時から17時までとします。

(b) 郵送の場合は書留郵便で、封筒の表に「理工学研究科博士前期課程出願資格認定審査書類在中」と朱書きし、受付期間最終日17時必着とします。

(2) 出願資格審査の結果は、下記日付で本人あてに通知します。

令和元年12月18日(水)

4. 出願手続

出願期間

令和2年1月7日(火)～令和2年1月9日(木)

(a) 受付時間は9時から17時までとします。

(b) 郵送の場合は書留郵便で、封筒の表に「理工学研究科博士前期課程願書在中」と朱書きし、受付期間最終日17時必着とします。

問合せ先・出願書類等提出先

〒890-0065

鹿児島市郡元一丁目21番40号 鹿児島大学理工学研究科等研究科・工学系学務課大学院係

電話(099)285-3057・8234 FAX(099)285-3410

E-mail: sedaigakuin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

3. Eligibility Check before Application

Applicants who wish to apply for admission under category ⑥ or ⑦ must submit the following forms, (a), (b) and (c) to the Graduate School of Science and Engineering, Kagoshima University within the application period before filing the application for eligibility check:

- (a) Summary of academic and professional activities (use the prescribed form: Form 7-1~7-4)
- (b) Certificated academic record
- (c) Certificated professional experience

Eligibility Check

(1) Acceptance period

From Nov.19 to Nov.20, 2019.

- (a) Office hours: from 9 a.m. to 5 p.m.
 - (b) In the case of mailing, it must be sent by registered mail, and write “The Master’s Course Application Documents” in red on the envelope. All required documents must reach the Admission Office by the application deadline 5 p.m.
- (2) The decision will be mailed to the applicants at the following date.
Dec.19, 2019.

4. Application Procedure

Application period

From Jan.7 to Jan.9, 2020.

- (a) Office hours: from 9 a.m. to 5 p.m.
- (b) In the case of mailing, it must be sent by registered mail, and write “The Master’s Course Application Documents” in red on the envelope. All required documents must reach the Admission Office by the application deadline 5 p.m.

Inquiry and Submission Addresses of Admissions Office

Research Administration, Graduate School of Science and Engineering, Kagoshima University
1-21-40 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan.
TEL: +81-99-285-3057 FAX: +81-99-285-3410
E-mail: sedaigakuin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

5. 出願書類等

(1) 下記の出願書類は、日本語または英語で作成してください。

出 願 書 類 等		出願資格別	注 意 事 項												
1	入 学 志 願 票 受 写 履 験 真 歴 票 票 書	全 志 願 者	本研究科所定の用紙（別紙様式6－1～6－3）に必要事項を記入してください。写真票には、出願前3ヶ月以内に撮影した上半身・脱帽・正面向きの写真（4cm×3cm）を貼付してください。												
2	卒 業（見込）証明書	出 願 資 格 ⑥を除く	最終出身学校等が発行したもの。												
		出 願 資 格 ⑥該当者	最終出身学校等が発行した卒業（見込）証明書。 【資格審査時に提出】												
3	成 績 証 明 書	出 願 資 格 ⑥を除く	最終出身学校等が発行したもの。												
		出 願 資 格 ⑥該当者	最終出身学等が発行したもの。 【資格審査時に提出】												
4	日本留学試験成績に関する証明書又は日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書(原本) (2017年以降に受験した1回の成績のものに限る)	原則として全志願者(出願資格(2)の①に該当する場合と海洋土木工学プログラム志願者は必要ありません)	受験する専攻毎に証明書提出の有無ならびに種類が違いますので、必ず「外国人留学生特別選抜の外国語について」（38～39ページ参照）を確認したうえで、提出してください。 <table><tr><th colspan="2">提出可能な証明書のスコア等</th></tr><tr><td>日本留学試験</td><td>日本語220点以上(記述を除く)、日本語記述30点以上</td></tr><tr><td>日本語能力試験</td><td>N 1 又は N 2</td></tr></table> ※ 証明書の種類により、有効期限があるものや、再発行期間が定められているものがあるため、各自で必ず事前に確認しておくこと。	提出可能な証明書のスコア等		日本留学試験	日本語220点以上(記述を除く)、日本語記述30点以上	日本語能力試験	N 1 又は N 2						
提出可能な証明書のスコア等															
日本留学試験	日本語220点以上(記述を除く)、日本語記述30点以上														
日本語能力試験	N 1 又は N 2														
5	TOEIC スコア又は TOEFL スコア (平成29年4月1日以降受験したもの)	原則として全志願者	受験する専攻毎にスコア提出の有無ならびに種類が違いますので、必ず「外国人留学生特別選抜の外国語について」（38～39ページ参照）を確認したうえで、提出してください。 <table><tr><th>スコアの種類</th><th>提出書類の名称〔原本〕</th></tr><tr><td>TOEIC TOEIC L&R</td><td>TOEIC Listening & Reading OFFICIAL SCORE CERTIFICATE</td></tr><tr><td>公 開 TOEIC S&W</td><td>TOEIC Speaking & Writing OFFICIAL SCORE CERTIFICATE</td></tr><tr><td>TOEIC-IP</td><td>TOEIC Listening & Reading Institutional Program (IP) Score Report</td></tr><tr><td>TOEFL-iBT</td><td>TOEFL Internet-based Test Taker Score Report</td></tr><tr><td>TOEFL-ITP</td><td>TOEFL ITP Score Report</td></tr></table> ※ スコアの種類により、スコアに有効期限があるものや、スコアを証明する書類の再発行期間が定められているものがあるため、各自で必ず事前に確認しておくこと。	スコアの種類	提出書類の名称〔原本〕	TOEIC TOEIC L&R	TOEIC Listening & Reading OFFICIAL SCORE CERTIFICATE	公 開 TOEIC S&W	TOEIC Speaking & Writing OFFICIAL SCORE CERTIFICATE	TOEIC-IP	TOEIC Listening & Reading Institutional Program (IP) Score Report	TOEFL-iBT	TOEFL Internet-based Test Taker Score Report	TOEFL-ITP	TOEFL ITP Score Report
スコアの種類	提出書類の名称〔原本〕														
TOEIC TOEIC L&R	TOEIC Listening & Reading OFFICIAL SCORE CERTIFICATE														
公 開 TOEIC S&W	TOEIC Speaking & Writing OFFICIAL SCORE CERTIFICATE														
TOEIC-IP	TOEIC Listening & Reading Institutional Program (IP) Score Report														
TOEFL-iBT	TOEFL Internet-based Test Taker Score Report														
TOEFL-ITP	TOEFL ITP Score Report														
6	住民票（写）又は パスポート（写）	全 志 願 者	市区町村長の交付する在留資格が記載された住民票の写し（日本国内在住の外国人の場合のみ）又はパスポートの写し（「受験」のために入国する場合）を提出してください。												
7	検 定 料	国費外国人留学生を除く全志願者	30,000円を検定料払込書(巻末)により、出願期間初日の1週間前から出願までの間に郵便局から払込み後(払込みの際に別途払込手数料が必要で)、出願書類に【振替払込受付証明書(お客さま用)】を添えて提出すること。なお、外国政府派遣留学生等に関して、留学生からの申請があった場合、検定料を免除します。ただし、外国の政府等から検定料が支給されている場合は適用しません。												
8	返 信 用 封 筒	全 志 願 者	[受験票等送付用]（1枚）（出願書類を持参する者は不要） 市販の封筒（長形3号 12cm×23.5cm）に志願者の住所・氏名・郵便番号を記入し374円切手(※)を貼付したもの。国外の場合は、航空郵便物25グラム相当の国際返信切手を同封すること。※郵便料金の改定があった場合は、改定後の郵便料金分の切手が必要です。												
			[合格通知用・入学手続書送付]（2枚） 市販の封筒（角形2号 24cm×33.2cm）に志願者の住所・氏名・郵便番号を記入したもの。封筒には切手不要。												

(注) 出願後、日本留学試験成績に関する証明書、日本語能力試験認定結果及び成績に関する証明書、TOEIC・TOEFLスコア(原本)の返却を希望する者は、次の事項を記載した紙(A4判・様式任意)を、出願時に必ず添付すること。なお、郵送による返却を希望する者は、所要の切手を貼付した返信用封筒も同封すること。

- ・志願者氏名
- ・志願するプログラム名
- ・返却を希望する旨の文章(試験当日に追加で提出するスコア(原本)の返却も希望する場合は、その旨も記載すること)

※スコアの返却は、当該入試合格者発表日以降、速やかに行う。

5. Application Documents

Applicants must submit the following documents filled in Japanese or English to the Postgraduate Affairs Section, Faculty of Engineering, during the given application period.

Application Forms and Documents		Category of Applicants	Notes		
1	Application for Admission Identification for Examination, Photograph Sheet, Personal History	All applicants	Use the prescribed form (Form 6-1～6-3) and paste your passport-size photograph (hatless, facing forward, 4×3cm, taken within 3 months) as indicated.		
2	Certificate of Bachelor's Degree (obtained or expected)	Applicants exclusive of Qualification⑥	The certificate must be an official document.		
		Applicants corresponding to Qualification⑥	Submit graduation certificate of the last school attended. It must be submitted at the time of the application for recognition of Qualification.		
3	Certified Academic Record	Applicants exclusive of Qualification⑥	Submit official transcript of the last school attended .		
		Applicants corresponding to Qualification ⑥	Submit official transcript of the last school attended. It must be submitted at the time of the application for recognition of Qualification.		
4	Certificate (original) verifying the results and scores of Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU) or Japanese- Language Proficiency Test (JLPT). (The documents must reflect the results of an examination taken after January 1, 2017.)	In principle, every applicant is required to submit this. (However, if you apply for the Ocean Civil Engineering Program or if your application status belongs to (2)-①, such scores are not required.)	Different certificates are required depending on the department you apply for. Please make sure to confirm “About foreign language for Special Entrance Examination for International Students” (refer to 40 - 41 pages) before submission		
			Types of scores we accept		
			Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU)	A score of 220 or over on the Japanese proficiency section (excluding the written examination); and a score of 30 or over on the written examination	
			Japanese-Language Proficiency Test (JLPT)	N1 or N2	
			* Some certificates have a validity date or reissue period. It is your responsibility to be aware of such restrictions in advance.		
5	TOEIC or TOEFL Score (conducted on or after 1 April 2017)	In principle, all candidates must submit a score	As the score requirements differ from department to department, refer, in advance, to the International Students Special Admissions: Foreign Language Examinations on pages 40 to 41.		
			Score type		Name of the submitted document (original)
			TOEIC	TOEIC L&R	TOEIC Listening & Reading OFFICIAL SCORE CERTIFICATE
				TOEIC S&W	TOEIC Speaking & Writing OFFICIAL SCORE CERTIFICATE
			TOEIC-IP	TOEIC Listening & Reading Institutional Program (IP) Score Report	
			TOEFL-iBT	TOEFL Internet-based Test Taker Score Report	
			TOEFL-ITP	TOEFL ITP Score Report	
			※As some scores may have an expiration date and/or document re-issuance period to certify how scores may be determined, be sure to check in advance that such issues do not pertain.		
6	Copy of a Certificate of Residence	All applicants	Foreign applicants must submit a “Copy of a certificate of residence” issued by the head administrator of the city or other district in which his/her status of residence is stated. Overseas applicants coming to Japan for the entrance examination must submit a copy of their passport		
7	Examination Fee	All applicants exclusive of International students who receive a Japanese Government Scholarship	¥30,000. Attach the Certificate of Transfer Payment (copy for customer) to the application documents after paying the fee at the Post Office using the Entrance Examination Payment form at the back of this booklet. (A transfer fee payment will be charged in addition to other incurred fees associated with transfers.) This must be completed during the time starting one week prior to the opening of the application period and the end of the application period. Foreign government sponsored students who apply for an exemption from the admission fee will be granted an exemption. However, students receiving the admissionfee from their government will not be exempted.		
8	Three Return Envelopes	All applicants	[For a letter of identification of examination] This return envelope is a self-addressed envelope of 12 cm×23.5 cm affixed a ¥374 stamp* on it. In case the address is outside Japan, an international reply coupon for a airmail postage for a worth 20 grams must be enclosed. (If the application documents are brought to the Postgraduate Affairs Section, Faculty of Engineering by an applicant oneself, this is not necessary.) * In case the postage charge changes, stamps equivalent to the amount of the revised postage charge are required.		
			[For a letter of the result of screening and entrance procedure] This return envelope is self-addressed envelope of 24 cm×33.2 cm. No need to affix a stamp on it.		

Note: Those who wish to have their Certificate verifying scores for the Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU), certificate verifying result and scores for Japanese-Language Proficiency Test (JLPT) or TOEIC or TOEFL score (original) returned must attach a letter (size A4 of any style) detailing the following items when filing an application. In addition, anyone who wishes to have them returned by postal mail must also enclose a return envelope with the required stamp attached.

- Applicant's name
- Name of the Program you are applying for
- Statement requesting the return of the score sheet (Please state if you wish to have the score sheet (original), which is additionally submitted on the test day, to be returned.)
- We will return the score sheet promptly after the announcement of the examination results.

6. 入学者の選抜方法

選考は、学力試験・面接試験及び出願書類によって行います。

なお、専攻が課す学力試験(専門科目、外国語)及び面接試験のうち、1つでも受験しなかった者は失格となり、合否判定の対象者とはなりません。

また、学力試験科目において、次に示すものが1つでもあった場合、不合格となります。

専門科目：得点が合計の50%未満、外国語：得点が40%未満(又は評価C)、総点：得点が50%未満

7. 外国人留学生特別選抜の外国語について

外国人留学生特別選抜の「外国語」の評価を行う書類又は試験について、次に示します。

志望する専攻や志願者が「英語を母国語とする者」か否かなどにより、出願の際に提出する書類や受験の申請を要する試験が異なりますので、注意してください。

(1) 評価を行う書類又は試験

数理工学プログラム、物理・宇宙プログラム、化学プログラム、生物学プログラム、地球科学プログラム、機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、化学工学プログラム、化学生命工学プログラム、情報・生体工学プログラム、建築学プログラム

志願者の 母国語	志願者が、出願資格(2)の① (日本の大学を卒業した者及び 令和2年(2020年)3月までに卒 業見込みの者)に該当するか	評価を行う書類 (出願時に提出する書類)
英 語	該当する場合	成績証明書(日本語学修に関係する部分)
	該当しない場合	日本留学試験(日本語220点以上(記述を除く)、日本語記述30点以上)のスコア、又は日本語能力試験(N1又はN2)の認定を証明する書類 ※ いずれも2017年以降に受験した1回の成績のものに限る。
英 語 以 外	該当する場合	TOEIC・TOEFL スコア(提出可能なスコアは下記(2)のとおり) ※ 2017年4月1日以降に受験したスコアに限る。
	該当しない場合	①と②の両方 ① 日本留学試験(日本語220点以上(記述を除く)、日本語記述30点以上)のスコア、又は日本語能力試験(N1又はN2)の認定を証明する書類 ※ いずれも2017年以降に受験した1回の成績のものに限る。 ② TOEIC・TOEFL スコア(提出可能なスコアは下記(2)のとおり) ※ 2017年4月1日以降に受験したスコアに限る。

海洋土木工学プログラム

志願者の 母国語	評価を行う試験又は書類	備 考
英 語	試験当日の「外国語(日本語)試験」	出願時に「外国語(日本語)試験」の受験を申請すること。
英 語 以 外	試験当日の「外国語(日本語)試験」、 又はTOEIC・TOEFL スコア	出願時に「外国語(日本語)試験」の受験を申請するか、下記(2)のスコアを提出すること。

(2) TOEIC・TOEFL スコアについて(地球環境科学専攻を除く)

上記(1)で示したTOEIC・TOEFL スコアについて、提出可能なスコアの種類を次に示します。

志望する専攻により内容が異なりますので、注意してください。

専攻等名		T O E I C ・ T O E F L ス コ ア					備考	
		提出可能なスコアの種類 (平成29年4月1日以降に受験したスコアに限る)						
		〔○=いずれかの「 <u>原本</u> 」を提出可(複数の提出可) ×=出願書類として認めない〕						
		TOEIC公開		TOEIC - IP	TOEFL - iBT	TOEFL - ITP		
TOEIC L&R	TOEIC S&W							
理学専攻	数理情報科学プログラム	○	○	×	○	×	試験初日の 16:10～16:30	複数のスコアが提出された場合は、 最も優れた評価点を利用する。
	物理・宇宙プログラム	○	×	×	○	×	試験初日の 15:10～15:30	複数のスコアが提出された場合は、 最も優れた評価点を利用する。
	化学プログラム	○	×	○ (備考の1. を参照)	○	×	試験初日の 15:10～15:30	1. 本理学部内で受験した者に 限り提出可。 2. 複数のスコアが提出された場 合は、最も優れた評価点を利用 する。
	生物学プログラム	○	×	○ (備考の1. を参照)	○	×	試験初日の 15:10～15:30	1. 本理学部内で受験した者に 限り提出可。 2. 複数のスコアが提出された場 合は、最も優れた評価点を利用 する。
	地球科学プログラム	○	×	○ (備考の1. を参照)	○	×	試験初日の 15:10～15:30	1. 本理学部内で受験した者に 限り提出可。 2. 複数のスコアが提出された場 合は、最も優れた評価点を利用 する。
工学専攻	機械工学プログラム	○	×	×	○	×	試験初日の 15:10～15:30	複数のスコアが提出された場合は、 最も優れた評価点を利用する。
	電気電子工学プログラム	○	×	×	○	×	試験初日の 16:10～16:30	複数のスコアが提出された場合は、 最も優れた評価点を利用する。
	海洋土木工学プログラム	○	○	○ (備考の1. を参照)	○	×	試験初日の 16:20～16:40	1. 本工学部内で受験した、本 学の海洋土木工学科の学生に 限り提出可。 2. 複数のスコアが提出された場 合は、最も優れた評価点を利用 する。
	化学工学プログラム	○	×	×	○	×	試験初日の 16:10～16:30	複数のスコアが提出された場合は、 最も優れた評価点を利用する。
	化学生命工学プログラム	○	×	×	○	×	試験初日の 16:10～16:30	複数のスコアが提出された場合は、 最も優れた評価点を利用する。
	情報・生体工学プログラム	○	×	○ (備考の1. を参照)	○	○ (備考の1. を参照)	試験初日の 14:40～15:00	1. 本工学部内で受験した、本 学の情報生体システム工学科 の学生に限り提出可。 2. 複数のスコアが提出された場 合は、最も優れた評価点を利用 する。
	建築学プログラム	○	×	○ (備考の1. を参照)	○	×	試験初日の 16:10～16:30	1. 本工学部内で受験した、本 学の建築学科の学生に限り提 出可。 2. 複数のスコアが提出された場 合は、最も優れた評価点を利用 する。

6. Screening and Examination Procedure

The screening will be made on the basis of the results of the written examination, oral examination, and certified academic records.

Failure to take the scholastic ability examination (major subject, foreign language) or oral examination required by the course you wish to enroll in will disqualify and exclude you from any admission decision.

If one of the following applies in the scholastic ability examination, you will fail.

Specialized subject: score is below 50% of the total

Foreign language: score is below 40% of the total (or evaluated as C)

Total score: score is below 50% of the total

7. International Students Special Admissions: Foreign Language Examinations

Documents and examination to evaluate “foreign language” for Special Entrance Examination for International Students are as follows.

Please check carefully because application documents differ depending on the department you apply for and whether your mother language is English or not.

(1) Documents or examination

Mathematics and Informatics Program, Physics and Astronomy Program, Chemistry Program, Biology Program, Earth Science Program, Mechanical Engineering Program, Electrical and Electronics Engineering Program, Chemical Engineering Program, Chemistry and Biotechnology Program, Information Science and Biomedical Engineering Program, Architecture and Architectural Engineering Program

Mother language of an applicant	If an applicant's situation is relevant to the application status of (2)-① (those who graduated or expected to have graduated from Japanese universities by March, 2020).	Required documents (documents to be submitted at the application)
English	Applicable	Academic transcript (parts related to Japanese language learning)
	Not applicable	A document verifying Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU): a score of 220 or over on the Japanese proficiency section (excluding the written examination); a score of 30 or over on the written examination or the certification Japanese-Language Proficiency Test (JLPT) of N1 or N2. ※The documents must reflect the results of an examination taken after January 1, 2017.)
Language other than English	Applicable	TOEIC and/or TOEFL score (score according the following conditions (2) are acceptable.) ※Limited to the score obtained after April 1, 2017.
	Not applicable	<u>Both ① and ②</u> ①A document verifying Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU): a score of 220 or over on the Japanese proficiency section (excluding the written examination); a score of 30 or over on the written examination or the certification Japanese-Language Proficiency Test (JLPT) of N1 or N2. ※The documents must reflect the results of an examination taken after January 1, 2017. ②TOEIC and/or TOEFL score (score according the following condition (2) is acceptable.) ※Limited to the score obtained after April 1, 2017.

Ocean Civil Engineering Program

Mother language of an applicant	Examination(s) or documents for evaluation	Notes
English	The Japanese language examination on the examination day	When you file an application, please apply for “The Japanese language examination”.
Language other than English	The Japanese language examination on the examination day; or TOEIC and/or TOEFL score	When you file an application, please apply for “The Japanese language examination”, or submit the score listed in (2) below.

(2) About TOEIC and/or TOEFL score (excluding Earth and Environmental Science Course)

The following TOEIC and/or TOEFL scores indicated above in (1) are acceptable.

Please check carefully because the requirements differ depending on the department for which you apply.

		A	B	C	D	E		
Department		TOEIC and/or TOEFL score						Notes
		Types of scores we accept					You may submit a new official score(s) on the test indicated in the columns on the left (A to E). If you intend to do so, submit it/them between the times indicated below.	
		Only official score(s) of TOEIC and/or TOEFL that you have taken on or after 1 April 2017. ⊖=Submit an “original” score (or scores) ⊗=Unacceptable as an application document						
		TOEIC		TOEIC - IP	TOEFL - iBT	TOEFL - ITP		
TOEIC L&R	TOEIC S&W							
Department of Science	Mathematics and Informatics Program	⊖	⊖	⊗	⊖	⊗	Submissions accepted between 16:10 and 16:30 on the examination day.	If you submit two or more official scores, the best score will be adopted.
	Physics and Astronomy Program	⊖	⊗	⊗	⊖	⊗	Submissions accepted between 15:10 and 15:30 on the examination day.	If you submit two or more official scores, the best score will be adopted.
	Chemistry Program	⊖	⊗	⊖ Refer to note 2	⊖	⊗	Submissions accepted between 14:40 and 15:00 on the examination day.	1. If you submit two or more official scores, the best score will be adopted. 2. Submissions accepted only from undergraduate student who has taken the examination at the Faculty of Science, Kagoshima University.
	Biology Program	⊖	⊗	⊖ Refer to note 2	⊖	⊗	Submissions accepted between 14:40 and 15:00 on the examination day.	1. If you submit two or more official scores, the best score will be adopted. 2. Submissions accepted only from undergraduate student who has taken the examination at the Faculty of Science, Kagoshima University.
	Earth Science Program	⊖	⊗	⊖ Refer to note 2	⊖	⊗	Submissions accepted between 14:40 and 15:00 on the examination day.	1. If you submit two or more official scores, the best score will be adopted. 2. Submissions accepted only from undergraduate student who has taken the examination at the Faculty of Science, Kagoshima University.
Department of Engineering	Mechanical Engineering Program	⊖	⊗	⊗	⊖	⊗	Submissions accepted between 15:10 and 15:30 on the examination day.	If you submit two or more official scores, the best score will be adopted.
	Electrical and Electronics Engineering Program	⊖	⊗	⊗	⊖	⊗	Submissions accepted between 16:10 and 16:30 on the examination day.	If you submit two or more official scores, the best score will be adopted.
	Ocean Civil Engineering Program	⊖	⊖	⊖ Refer to note 2	⊖	⊗	Submissions accepted between 16:20 and 16:40 on the examination day.	1. If you submit two or more official scores, the best score will be adopted. 2. Submissions accepted only from undergraduate student of Ocean Civil Engineering who has taken the examination at the Faculty of Engineering, Kagoshima University.
	Chemical Engineering Program	⊖	⊗	⊗	⊖	⊗	Submissions accepted between 16:10 and 16:30 on the examination day.	If you submit two or more official scores, the best score will be adopted.
	Chemistry and Biotechnology Program	⊖	⊗	⊗	⊖	⊗	Submissions accepted between 16:10 and 16:30 on the examination day.	If you submit two or more official scores, the best score will be adopted.
	Information Science and Biomedical Engineering Program	⊖	⊗	⊖ Refer to note 2	⊖	⊖ Refer to note 2	Submissions accepted between 14:40 and 15:00 on the examination day.	1. If you submit two or more official scores, the best score will be adopted. 2. Submissions accepted only from undergraduate student of Information Science and Biomedical Engineering who has taken the examination at the Faculty of Engineering, Kagoshima University.
	Architecture and Architectural Engineering Program	⊖	⊗	⊖ Refer to note 2	⊖	⊗	Submissions accepted between 16:10 and 16:30 on the examination day.	1. If you submit two or more official scores, the best score will be adopted. 2. Submissions accepted only from undergraduate student of Architecture and Architectural Engineering who has taken the examination at the Faculty of Engineering, Kagoshima University.

8. 試験科目・日時及び場所

(a) 学力試験

令和2年2月17日(月)原則として、追試験は行いません。

☆試験時間と試験科目

専攻名等		時刻										
		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00		
理 学 専 攻	数理情報科学プログラム					12:40 集 合	数学(出題数は4問で、全問解答する。) 13:00～16:00		※8			
	物理・宇宙プログラム					12:40 集 合	物理学に関する基礎問題 13:00～15:00	※8				
	化学プログラム					12:40 集 合	化学 13:00～14:30	※8				
	生物学プログラム					12:40 集 合	生物学 13:00～14:30	※8				
	地球科学プログラム					12:40 集 合	地球科学 13:00～14:30	※8				
工 学 専 攻	機械工学プログラム		10:20 集 合	応用数学 10:40～12:10			専門科目 ※1 13:00～15:00	※8				
	電気電子工学プログラム		10:20 集 合	応用数学 10:40～12:10			電気磁気学 13:00～14:20	電気回路学 14:40～16:00	※8			
	海洋土木工学プログラム	8:30 集 合 (外国語試験受験者) 外国語(日本語) 8:50～10:20		10:20 集 合 (外国語試験を受験しない者) 応用数学 10:40～11:40			専門科目 ※2 13:00～16:10		※8			
	化学工学プログラム					12:40 集 合	専門科目 ※3 13:00～16:00		※8			
	化学生命工学プログラム					12:40 集 合	専門科目 ※4 13:00～16:00		※8			
	情報・生体工学プログラム		10:20 集 合	応用数学 ※5 10:40～12:10			専門科目 ※6 13:00～14:30	※8				
	建築学プログラム					12:40 集 合	専門科目 ※7 13:00～16:00		※8			

【表中の※印について】

※1 機械工学プログラム	「材料力学」「機械力学」「工業熱力学」「流体力学」「機械材料学」「制御工学」の6科目の中から、 <u>出願時に2科目を選択</u> 。
※2 海洋土木工学プログラム	「海洋物理学」「水理学」「構造力学」「土木材料・コンクリート構造工学」「土質力学」の5科目の中から、 <u>問題を見て3科目を選択</u> 。
※3 化学工学プログラム	移動現象論，化工熱力学，単位操作，反応工学，無機化学及び無機材料化学
※4 化学生命工学プログラム	「物理化学」「分析化学」「有機化学」「生物化学」「高分子化学」の5科目の中から、 <u>出願時に3科目を選択</u> 。
※5 情報・生体工学プログラム	応用数学（線形代数，微分積分，微分方程式）。
※6 情報・生体工学プログラム	「プログラミング基礎」「電気回路基礎」の2科目の中から、 <u>問題を見て1科目を選択</u> 。
※7 建築学プログラム	計画系3科目（建築計画，都市計画，建築史），環境系2科目（環境工学，建築設備），構造系4科目（構造力学，建築材料，鉄筋コンクリート構造，鉄骨構造）の合計9科目の中から3科目を， <u>出願時に選択</u> 。 ただし，複数の系から選択し，1つの系からは2科目までとすること。
※8 <u>新たなTOEIC・TOEFLスコア（原本）の提出</u>	14:40～15:00（化学プログラム，生物学プログラム，地球科学プログラム及び情報・生体工学プログラム） 15:10～15:30（物理・宇宙プログラム，機械工学プログラム） 16:10～16:30（数理情報科学プログラム，電気電子工学プログラム，化学工学プログラム，化学生命工学プログラム，及び建築学プログラム） 16:20～16:40（海洋土木工学プログラム） …希望する者は，新たなTOEIC，TOEFLのスコア（原本）を提出する。詳細については，55ページに記載してあるので，必ず確認すること。

8. Selected subjects of examination · Date and Place of Examination

(a) Written examination

February 17, 2020

In principle, make-up examinations will not be conducted.

☆Examination Time and Examination Subjects

Department		Time										
		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00		
Department of Science	Mathematics and Informatics Program				Meeting time 12:40	Mathematics (Answer all four questions) 13:00~16:00				※8		
	Physics and Astronomy Program				Meeting time 12:40	Basic Problems of Physics 13:00~15:00			※8			
	Chemistry Program				Meeting time 12:40	Chemistry 13:00~14:30		※8				
	Biology Program				Meeting time 12:40	Biology 13:00~14:30		※8				
	Earth Science Program				Meeting time 12:40	Earth Science 13:00~14:30		※8				
Department of Engineering	Mechanical Engineering Program		Meeting time 10:20	Applied Mathematics 10:40~12:10		Major Subject ※1 13:00~14:30			※8			
	Electrical and Electronics Engineering Program		Meeting time 10:20	Applied Mathematics 10:40~12:10		Electromagnetism 13:00~14:20		Theory of Electric Circuits 14:40~16:00		※8		
	Ocean Civil Engineering Program	Foreign Language: Japanese 8:50~10:20		Applied Mathematics 10:40~11:40		Major Subject ※2 13:00~16:10				※8		
	Chemical Engineering Program	Meeting time 8:30 (Foreign language examinee)		Meeting time 10:20 (Foreign language non-examinee)		Meeting time 12:40	Major Subject ※3 13:00~16:00			※8		
	Chemistry and Biotechnology Program					Meeting time 12:40	Major Subject ※4 13:00~16:00			※8		
	Information Science and Biomedical Engineering Program	Meeting time 10:20		Applied Mathematics ※5 10:40~12:10		Major Subject ※6 13:00~14:30		※8				
	Architecture and Architectural Engineering Program					Meeting time 12:40	Major Subject ※7 13:00~16:00			※8		

【※ refer to the following:】

※1 Mechanical Engineering Program	Select 2 subjects from among Strength of Materials, Dynamics of Machinery, Engineering Thermodynamics, Fluid Mechanics, Materials in Mechanical Engineering, and Automatic Control <u>at the time of application.</u>
※2 Ocean Civil Engineering Program	Select 3 subjects from Physical Oceanography, Hydraulics, Structural Mechanics, Construction Materials & Concrete Structural Engineering, and Soil Mechanics <u>after confirming the problems on the test.</u>
※3 Chemical Engineering Program	Transport Phenomena, Thermodynamics, Unit Operation, Chemical Reaction Engineering, Materials & Concrete Inorganic Chemistry / Inorganic Materials Chemistry.
※4 Chemistry and Biotechnology Program	Select 3 subjects on application (Physical Chemistry, Analytical Chemistry, Organic Chemistry, Polymer Chemistry and Biological Chemistry) <u>at the time of application.</u>
※5 Information Science and Biomedical Engineering Program	Applied Mathematics (Linear Algebra, Derivation, Integration, and Differential Equation)
※6 Information Science and Biomedical Engineering Program	Select 1 subject from programming Language and Theory of Electric Circuits <u>after confirming the problems on the test.</u>
※7 Architecture and Architectural Engineering Program	Select 3 subjects from following course on application (Do NOT select 3 subjects within the same course): Design and Planning Course (Architectural Design and Planning, Urban Design and Architectural History), Built Environment Course (Environmental Design and Building Equipment) and Structures Course (Structural Mechanics, Building Materials, Reinforced Concrete Structures and Steel Structures.) <u>at the time of application.</u>
※8 Submission of a new official TOEIC and/or TOEFL score(s)	14:40-15:00 (Chemistry Program, Biology Program, Earth Science Program, and Information Science and Biomedical Engineering Program) 15:10-15:30 (Physics and Astronomy Program, and Mechanical Engineering Program) 16:10-16:30 (Mathematics and Informatics Program, Electrical and Electronics Engineering Program, Chemical Engineering Program, Chemistry and Biotechnology Program, and Architecture and Architectural Engineering Program) 16:20-16:40 (Ocean Civil Engineering Program) You may submit one or more of your original scores from the official TOEIC or TOEFL. Refer to page 57 for detailed information.

☆試験科目配点

専攻名等		専門科目	外国語	総点
理学専攻	数理情報科学プログラム	400	※	400
	物理・宇宙プログラム	400	※	400
	化学プログラム	200	※	200
	生物学プログラム	200	※	200
	地球科学プログラム	200	※	200
工学専攻	機械工学プログラム	300	※	300
	電気電子工学プログラム	300	※	300
	海洋土木工学プログラム	400	100	500
	化学工学プログラム	300	※	300
	化学生命工学プログラム	300	※	300
	情報・生体工学プログラム	300	※	300
	建築学プログラム	450	※	450

- ☆ 試験開始後30分を超えて遅刻したときは、その科目等の受験を認めません。
- ☆ 上表の外国語に※印のある専攻は、外国語の評価は「A」「B」「C」の3段階で行います。
- ☆ 受験の詳細についてはあらかじめ当該専攻に確認すること。
- ☆ 関数付電卓の使用について
使用することができるプログラムは以下の通りです。
 - ・海洋土木工学プログラム、建築学プログラム
 - ・化学工学プログラムは持ち込みはできませんが、試験時に貸与します。

(b) 面接試験

- ☆ 学力試験終了後
- ☆ 試験開始後30分を超えて遅刻したときは、受験を認めません。

(c) 試験場

専攻名等		試験場
理学専攻	数理情報科学プログラム	鹿児島大学理学部
	物理・宇宙プログラム	
	化学プログラム	
	生物学プログラム	
	地球科学プログラム	
工学専攻	機械工学プログラム	鹿児島大学工学部
	電気電子工学プログラム	
	海洋土木工学プログラム	
	化学工学プログラム	
	化学生命工学プログラム	
	情報・生体工学プログラム	
	建築学プログラム	

＊日時、試験場等の詳細は、下記の日時に工学部共通棟玄関前と理学部掲示板に掲示します。

令和2年2月14日(金) 14時

☆Written Examination Mark Distribution by Subject

	Department	Major Subjects	Foreign Language	Total
Department of Science	Mathematics and Informatics Program	400	※	400
	Physics and Astronomy Program	400	※	400
	Chemistry Program	200	※	200
	Biology Program	200	※	200
	Earth Science Program	200	※	200
Department of Engineering	Mechanical Engineering Program	300	※	300
	Electrical and Electronics Engineering Program	300	※	300
	Ocean Civil Engineering Program	400	100	500
	Chemical Engineering Program	300	※	300
	Chemistry and Biotechnology Program	300	※	300
	Information Science and Biomedical Engineering Program	300	※	300
	Architecture and Architectural Engineering Program	450	※	450

☆Applicants who are more than 30 minutes late for the examination time can't take the subject.

☆If you apply for departments with ※ mark attached to the language column in the above table, the foreign language evaluation will be made into three levels of A, B and C.

☆Applicants are strongly advised to have close contact with preferred academic advisor about the examination details.

☆On use of scientific calculator in examination.

Programs which permit use:

- Ocean Civil Engineering, Architecture and Architectural Engineering
- Chemical Engineering

(The scientific calculator is loaned though cannot bring in.)

(b) Oral examination

☆after the Written examination

☆Applicants who are more than 30 minutes late for the examination time can't take the subject.

(c) Place of examination:

	Department	Place of examination
Department of Science	Mathematics and Informatics Program	Faculty of Science, Kagoshima University
	Physics and Astronomy Program	
	Chemistry Program	
	Biology Program	
	Earth Science Program	
Department of Engineering	Mechanical Engineering Program	Faculty of Engineering, Kagoshima University
	Electrical and Electronics Engineering Program	
	Ocean Civil Engineering Program	
	Chemical Engineering Program	
	Chemistry and Biotechnology Program	
	Information Science and Biomedical Engineering Program	
	Architecture and Architectural Engineering Program	

*The details of the examination places will be posted in the entrance hall of "kyotsutou" of Faculty of Engineering and Faculty of Science on the following date.

Feb. 14, 2020, at 14:00.

☆ 詳細の問い合わせ先

・理学専攻

数理情報科学プログラム	伊藤 稔	itoh@sci.kagoshima-u.ac.jp
物理・宇宙プログラム	廣井 政彦	hiroii@sci.kagoshima-u.ac.jp
化学プログラム	伊東 祐二	yito@sci.kagoshima-u.ac.jp
生物学プログラム	内海 俊樹	uttan@sci.kagoshima-u.ac.jp
地球科学プログラム	山本 啓司	hyam@sci.kagoshima-u.ac.jp

・工学専攻

機械工学プログラム	上谷 俊平	kamitani@mech.kagoshima-u.ac.jp
電気電子工学プログラム	堀江 雄二	horie@eee.kagoshima-u.ac.jp
海洋土木工学プログラム	山城 徹	toru@oce.kagoshima-u.ac.jp
化学工学プログラム	二井 晋	niisus@cen.kagoshima-u.ac.jp
化学生命工学プログラム	隅田 泰生	ysuda@eng.kagoshima-u.ac.jp
情報・生体工学プログラム	王 鋼	gwang@ibe.kagoshima-u.ac.jp
建築学プログラム	二宮 秀與	nimiya@aac.kagoshima-u.ac.jp

9. 合格者発表

令和2年3月3日(火) 10時

合格者の受験番号を工学部共通棟玄関前と理学部掲示板に掲示するとともに、合格者には合格通知書を送付します。また、鹿児島大学理工学研究科ホームページ (<http://grad.eng.kagoshima-u.ac.jp/>) にも合格者の受験番号を掲載します。なお、電話等による可否の照会には応じません。

10. 入学手続

(1) 提出書類

(ア) 宣誓書

(イ) 在学保証書

(ウ) 卒業証明書 他

(2) 納付金等 (2018年度実績)

入 学 料 282,000円

授 業 料 267,900円 (年額 535,800円)

(注1) 国費外国人留学生は入学料、授業料ともに不要です。

(注2) 外国政府派遣留学生等に関して、留学生からの申請があった場合、入学料を免除します。ただし、外国の政府等から入学料が支給されている場合は適用しません。

(注3) 入学料、授業料の納付が経済的理由により困難で、かつ学業優秀な者、又は風水害の被災等の特別な事情のある者には、選考の上、全額または半額の免除が認められる制度があります。ただし、入学手続後に入学を辞退する場合、入学料徴収猶予又は入学料免除の申請は無効となり、入学料を納入していただくことになります。

(注4) 納付金等改定が行われた場合は、改定時から新料金が適用されます。

(3) 入学手続期間等

入学手続の日時及びその他必要な事項は、2020年2月下旬頃合格者へ通知します。

(4) 既納の入学料は次の場合を除き、いかなる理由があっても返還できません。

(ア) 入学料を払込んだが、入学手続をしなかった場合

(イ) 入学料を誤って二重に払込んだ場合

☆For further inquiry about the examinations

• Department of Science

• Mathematics and Informatics Program	ITOH Minoru	itoh@sci.kagoshima-u.ac.jp
• Physics and Astronomy Program	HIROI Masahiko	hiro@sci.kagoshima-u.ac.jp
• Chemistry Program	ITO Yuji	yito@sci.kagoshima-u.ac.jp
• Biology Program	UCHIUMI Toshiki	uttan@sci.kagoshima-u.ac.jp
• Earth Science Program	YAMAMOTO Hiroshi	hyam@sci.kagoshima-u.ac.jp

• Department of Engineering

• Mechanical Engineering Program	KAMITANI Shunpei	kamitani@mech.kagoshima-u.ac.jp
• Electrical and Electronics Engineering Program	HORIE Yuji	horie@eee.kagoshima-u.ac.jp
• Ocean Civil Engineering Program	YAMASHIRO Toru	oru@oce.kagoshima-u.ac.jp
• Chemical Engineering Program	NII Susumu	niisus@cen.kagoshima-u.ac.jp
• Chemistry and Biotechnology Program	SUDA Yasuo	ysuda@eng.kagoshima-u.ac.jp
• Information Science and Biomedical Engineering Program	WANG Gang	gwang@ibe.kagoshima-u.ac.jp
• Architecture and Architectural Engineering Program	NIMIYA Hideyo	nimiya@aae.kagoshima-u.ac.jp

9. Notification of Results

Mar.3, 2020, at 10:00.

The identification numbers of successful candidates will be posted in the entrance hall of “Kyotsutou” of the Faculty of Engineering and on the bulletin boards of the Faculty of Science, and also be sent to successful applicants by mail. In addition, the identification numbers of successful candidates will be posted on the Graduate School of Science and Engineering Kagoshima University homepage (<http://grad.eng.kagoshima-u.ac.jp/>). Inquiries about the results by other means such as telephone, etc, will not be accepted.

10. Entrance Formalities

(1) Documents to be submitted

- A written oath.
- A guarantee of registration.
- A diploma (graduation certificate), etc.

(2) Payment of fees (2018, fiscal year)

Admission fee : 282,000 yen

Tuition : 267,900 yen per semester (535,800 yen annually)

Notes :

1. Students supported by the Japanese Government Scholarship are exempted from both admission fee and tuition.
 2. Foreign-government sponsored students who apply for an exemption from the admission fee will be granted an exemption. However, students receiving the admission fee from their government will not be exempted.
 3. There is a financial aid to students by exempting them from either total or half of the admission fee or tuition. Eligibility for the financial aid is based on financial need and academic achievement or sufferings of natural disasters. In case enrollment has been documented to have declined after the completion of admission procedure, the application for suspension of admission fee collection or exemption of admission fee will be null and void and the admission fee will be collected.
 4. If the Payment of fees are revised, then you will have to pay the revised amount.
- (3) The schedule for enrollment procedure and other related items will be enclosed under the same cover of acceptance letter, which is planned to be sent to each successful applicant at the beginning of February, 2020.
- (4) Fees will only be refunded in either of the following two cases:
- Fees were paid but the admission procedure was not completed.
 - Fees were mistakenly paid twice.

11. 全般的な注意事項

- (1) 志願者は、願書提出前に希望する専攻の専攻長または研究指導教員と必ず連絡を取り、教育研究の内容などについて十分相談してください。
- (2) 出願手続後の提出書類の内容変更は認めません。
- (3) 受理した出願書類等および納入された検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還いたしません。
 - ①「日本留学試験のスコア」にかかる証明書、「日本語能力試験の認定」にかかる証明書又はTOEIC・TOEFLスコア（原本）
出願の際に返却を希望した場合（36ページ参照）
 - ②検定料（返還額：30,000円から振込手数料を控除した額）
 - ア．検定料を払い込んだものの、出願しなかった場合（出願書類を提出しないまま受付期限が終了したり、書類不備等により出願書類が受理されなかった場合）
 - イ．誤って検定料を二重に払込んだ場合
- (4) 受験の際は、必ず受験票を持参してください。
- (5) 入学試験に関する照会は、送り先住所・氏名を記入し、所要の切手を貼付した返信用封筒を同封し、郵送で提出してください。募集要項の郵送を求める時は、封筒表面に「大学院博士前期課程外国人留学生学生募集要項請求」と朱書きし、返信用封筒（角形2号、24cm×33.2cm）に依頼者の郵便番号、住所、氏名を明記の上、390円（速達の場合は780円）切手(※)を貼ったものを同封してください。（受信場所が外国の場合は、航空郵便物500グラム相当の国際返信切手を同封のうえ請求すること。）※郵便料金の改定があった場合は、改定後の郵便料金分の切手が必要です。

問い合わせ先及び出願書類等提出先

鹿児島大学理工学研究科等研究科・工学系学務課大学院係 〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番40号 電話 (099) 285-3057 FAX(099)285-3410 E-mail: sedaigakuin@kuas.kagoshima-u.ac.jp
--

11. General Instructions

- (1) Applicants are strongly advised to have close contact with preferred academic advisor at our graduate school and discuss their Master's program before submitting the application documents.
- (2) The contents of submitted documents will not be allowed to change after the documents are accepted.
- (3) We will not return the application documents we have accepted or refund the examination fee delivered for any reason, except in the following cases.

- ① Certificate verifying the score of "Examination for Japanese University Admission for International Students (EJU)" or certificate verifying the qualification of "Japanese-Language Proficiency Test (JLPT)" or TOEIC or TOEFL score sheet (original)

When the return was requested at the time of filing (See page 37)

- ② Examination fee (Refund amount: Amount after deducting transfer fee from 30000 yen)
 - a) If you did not file after having paid the examination fee (When the acceptance deadline has ended without your submitting the application documents, or the application documents have not been accepted due to document inadequacy.)
 - b) If you have incorrectly paid the examination fee twice.
- (4) Applicants should bring their own Identification for Examination with them on the date of examination.
- (5) Any inquiry about the entrance examination should be addressed to the Please enclose a stamped, self-addressed envelope.

When asking for application forms by mail, indicate "To be requested an application form for Foreign students admission to the Master's course" on the envelope with red-ink, and enclose a self-addressed envelope (24cm × 33.2cm) with a stamp(s) equivalent to ¥390 (¥780 in case of express delivery)*. (If the applicant supposes to receive the requested form at foreign country, the postage should be enclosed for the amount of overseas (by air mail) as worth as 500g postal matter.)

* In case the postage charge changes, stamps equivalent to the amount of the revised postage charge are required.

Admissions Office:

Research Administration, Graduate School of Science and Engineering, Kagoshima University
1-21-40 Korimoto, Kagoshima, 890-0065, Japan.

TEL: +81-99-285-3057, FAX: +81-99-285-3410

E-mail: sedaigakuin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

VI. 大学院理工学研究科 博士前期課程の概要

(平成31年度)

(平成31年 4 月 1 日現在)

機 械 工 学 専 攻

機械工学専攻で取り扱う教育研究の範囲は、材料の物性と強度、構造物設計、機器の設計と制御、生産加工、熱・流体が関与する諸現象、エネルギー利用技術、各種工学現象の解明や機械設計への計算機利用技術ならびに各種システム構成技術等である。本専攻では学部教育課程での機械工学基礎教育を踏まえ、機械技術の高度化と先端化を追求するために必要な知識を積極的に取り入れて応用することのできるエンジニアの育成を目指している。また、本専攻では上記の広範囲にわたる機械工学領域の教育研究を3つのコースで分担実施している。

コース ワーク	主 な 教 育 研 究 内 容	主 な 授 業 科 目	教 員 氏 名
生 産 工 学	鉄鋼材料、非鉄材料、セラミック材料、複合材料、電子材料その他新素材の開発に加え、それら材料の強度や特性の計測と評価、特性発現機構の理解、種々の環境が強度や特性に与える影響の評価と理解、数値計算方法の開発のための研究として、材料熱力学、材料組織学、結晶学、材料強度学、環境強度学、計算力学、固体力学、破壊力学、塑性加工学など、生産工学に関する幅広い領域の教育研究を行っている。 [主な研究テーマ] ○ 界面破壊力学 ○ 電子実装部の信頼性評価 ○ 構造材料の余寿命診断技術の開発 ○ 金属・セラミック・複合材料の開発と特性評価 ○ 電子実装学 ○ 原子力材料の照射効果 ○ 結晶性材料の力学的性質	固体力学特論 機械材料学特論 高エネルギー材料工学特論 材料物性特論 有限要素法特論 結晶強度物性特論	池田 徹 駒崎 慎一 佐藤 紘一 中村 祐三 小金丸正明 定松 直
エ ネ ル ギ ー 工 学	流体力を利用した環境保全機器の開発、バイオ燃料のディーゼルエンジンにおける燃焼、工業機器における超音速流れの解析と小型ハイブリッドロケットの開発、マイクロチャンネルを流れるガスの流動及び熱伝達特性の解明とその工業応用、流れの数値計算とその計測・設計への応用などに関する教育研究を行っている。 [主な研究テーマ] ○ 流体力を利用した環境保全機器の開発 ○ ディーゼル機関およびバーナ機器におけるバイオ燃料の利用 ○ 超音速ノズルの開発と小型ハイブリッドロケットの開発 ○ マイクロチャンネルガス流の流動および熱伝達特性 ○ 管路内流れの状態推定と旋回流を利用した非接触搬送装置の設計	流体機械特論 熱機関工学特論 数値熱流体工学特論 伝熱工学特論 流体計測制御特論	福原 稔 木下 英二 片野田 洋 洪 定杓 中尾 光博
機 械 シ ス テ ム 工 学	自励振動現象の発生メカニズムと防止対策・有効利用、効率的な製造を支える材料の精密加工と加工機械の知能化、塑性加工とトライボロジー、高機能機械システムを設計・制御するための理論の発展と新しい技術の開発、高機能医療・福祉システムの開発、マイクロ・ナノバイオメカニクス等の研究を行っている。また、コンピュータを利用した計測制御、応用システム工学、自律移動ロボットの知能化技術、非線形システム制御の研究を行っている。 [主な研究テーマ] ○ ボーリング加工における穴多角形化の防止対策 ○ エンドミル加工における振動低減と加工計測制御 ○ 機械システムへの制御理論の応用 ○ ロボットの知的マニピュレーション ○ 高機能医療・福祉システム ○ RT技術の工場自動化への応用 ○ 金属加工の変形機構とトライボロジー ○ 非線形制御理論とその応用展開 ○ 新生児聴覚診断装置の開発 ○ ロボット・IoT社会浸透のための実世界モデリング	精密加工工学特論 ロボット工学特論 トライボロジー特論 機械力学特論 計測制御工学特論 非線形システム制御特論 生体機械工学特論 機械制御工学特論	近藤 英二 ** 余 永 上谷 俊平 松崎 健一郎 熊澤 典良 西村 悠樹 村越 道生 ※ 高橋 淳二

**は2021年3月退職予定の教員

※は客員教員

電 気 電 子 工 学 専 攻

高度情報社会における科学技術の特徴は、新素材、超 LSI、コンピュータなど、先端技術に見られる個別技術のハイテク化と、これらを結合したシステム化である。特に、新しいコンセプトに基づく新素材、デバイスの開発などを旨とする電子物性デバイス工学、新しい電気エネルギー源や、電気エネルギーのシステムの利用を図る電気エネルギー工学、通信・情報・電子計算機などを統合した通信システム工学等の技術は、情報化社会を支える基盤技術であり、現代社会のあらゆるところで活用される。このような現代の電気電子系の技術の体系に呼応して、本専攻は、次のような分野を持つ3つコースワークに分かれて、教育研究を実施している。

コースワーク	主 な 教 育 研 究 内 容	主 な 授 業 科 目	教 員 氏 名
電子物性デバイス工学	高度情報化社会を支援している電子デバイスには多種多様なものがある。これらの電子デバイスの動作原理を研究するとともに、デバイスの高性能化に不可欠な電子材料の設計、作製プロセスなどの研究を行う。主に、高温超伝導体や酸化物の薄膜を用いた素子、ディスプレイ用の透明導電膜、光で充電できる電池の研究を行う。また、光電子分光などを用いた物性評価、プラズマプロセス、レーザー蒸着法や気相成長法などの作製プロセスの研究を行う。 [主な研究テーマ] ○超伝導デバイス ○液晶ディスプレイ用透明導電膜 ○高効率太陽光発電デバイス ○熱電変換デバイス ○光蓄電池 ○レーザー蒸着による機能性酸化物薄膜の作製と評価 ○光電子分光による電子構造評価 ○プラズマプロセス技術 ○先進気相成長技術	強相関電子デバイス工学特論 機器分析特論 薄膜工学特論 固体物性特論 微視的結晶成長プロセス工学 材料電気化学特論	寺田 教男 堀江 雄二 青野 祐美 奥田 哲治 前島 圭剛 野見山 輝明
電気エネルギー工学	システム制御理論とその電力システム制御への応用、並びに電気エネルギー変換装置としての DC-DC コンバータにおける雑音低減化に関する研究を行う。また、電気機器・パワーエレクトロニクス及び電動機ドライブの分野における高性能化・高信頼性化・インテリジェント化・小型化に関して解析と実験の両面よりの研究を行う。更に、高品質・高信頼性が要求される電力システムについて、超伝導技術を応用して格段の性能向上を図る研究や、信頼性向上のための配電設備劣化診断法の開発研究を行う。 [主な研究テーマ] ○電力システムの制御と同定・予測に関する研究 ○双方向 DC-DC コンバータの制御に関する研究 ○永久磁石同期電動機の位置センサレスドライブに関する研究 ○高効率モータ開発のための磁気計測法に関する研究 ○超伝導電力機器や核融合装置用超伝導コイルの研究 ○配電設備の劣化診断や負荷管理に関する研究	動的システム工学特論 デジタル制御システム特論 パワーエレクトロニクス特論 電磁エネルギー工学特論 電気エネルギーシステム特論 超伝導工学特論	八野 知博 田中 哲郎 山本 吉朗 甲斐 祐一郎 川畑 秋馬 川越 明史
通信システム工学	情報通信ネットワーク社会を支える電子回路・LSI・コンピュータ・無線通信・電波工学・高周波工学等の教育研究を行う。特に、宇宙通信技術、宇宙エレクトロニクス技術、無線電力伝送技術、小型携帯端末用アンテナ、光ファイバ通信技術、超高周波回路技術、柔軟な情報処理によるシステムの知能化、センサネットワークなどに関する研究を行う。 [主な研究テーマ] ○超高速通信用極低電力 AD/DA 変換 LSI 技術 ○無線電力伝送技術 ○マイクロ波・ミリ波・テラヘルツ帯高集積回路設計技術 ○光・高周波融合技術および光信号処理技術 ○ニューロファジィシステムの構築 ○無線センサネットワークの通信方式と応用 ○フォトニックネットワークシステム構成技術	通信用 LSI 工学特論 並列処理システム デジタル通信システム特論 Photonic communication technology マイクロ波工学特論	大畠 賢一 重井 徳貴 渡邊 俊夫 福島 誠治 西川健二郎

建 築 学 専 攻

建築学専攻では、人類の建築文化と技術を継承し、地域環境の保全に配慮しながら、現代の科学技術を総合的に活用して建築空間と生活環境の創造・維持に貢献できる専門的職業人・研究者の養成を教育の理念としており、建築計画と建築環境、建築構造の3分野を中心とした教育を行っている。

■コースワークについて

建築学専攻の教育面の特長は、建築実務と密接に関連した、建築設計・環境設計・構造設計の3分野のコースワークがカリキュラム化されていることである。

建築設計コースワークでは、建築設計と都市設計に関する実践的能力の育成を目標としており、実践的な課題を用いた設計演習を通して、建築の設計および都市や地域の設計に関する多角的で実践的な能力を養う。また設計演習と連携した講義では、建築の設計及び都市計画やまちづくりの計画作成に必要な視点と技術や技法に関する幅広い知識を修得する。

環境設計コースワークでは、建築物の環境性能を総合的に評価する能力の育成を目標としている。現実的な課題を用いた設計演習を通して、建築物の室内外環境、サービス性能、エネルギー、資源やマテリアルなどの視点から環境性能を多面的に評価し、建築物の総合環境性能評価を実践する能力を養う。また演習課題と連携した講義では、総合環境性能評価に必要な知識や技術を習得する。

構造設計コースワークでは、建築物の構造設計に関する実践的能力の育成を目標としている。現実的な課題を用いた設計演習を通して、構造計画、応力解析や変形解析、各種構造や基礎構造の設計に関する能力を養う。また演習課題と連携した講義では、構造設計に必要な知識・技術を修得する。

■建築設計実務経験プログラムについて

2008年11月の建築士法改正により建築士試験の受験資格が見直され、大学院における実務経験の審査基準が変更されたが、本専攻では2009年4月から計画・構造・環境の各専門領域に関する建築設計実務経験プログラムを設置しており、二級建築士試験受験資格取得者は修得単位に応じた実務経験年数（最大2年）が認められる。

コースワーク	主 な 教 育 研 究 内 容	主 な 授 業 科 目	教 員 氏 名
建 築 設 計	教育文化施設や複合施設の建築計画、保存再生、集合住宅等の地域計画、都市景観と都市整備、空間デザインと建築意匠等に関する研究教育と、コースワークを通して建築設計に関する教育を行う。 [主な研究テーマ] ○設計論 ○都市論 ○都市景観 ○複合施設計画 ○建築論 ○空間設計法 ○住文化と住宅計画 ○都市計画 ○地域計画 ○居住地のマネジメント ○保存再生	地域再生デザイン特論 都市デザイン特論 建築デザイン特論 居住地計画特論	鰐坂 徹 木方 十根 柴田 晃宏 小山 雄資
環 境 設 計	温熱や光に関する居住環境、空気質に関する室内環境、建築設備に関する研究教育と、コースワークを通して環境設計に関する教育を行う。 [主な研究テーマ] ○居住空間の温熱・空気・光環境の解析と評価 ○居住環境の調整法 ○自然エネルギーの建築物への適用技術 ○地域の熱環境の解析と評価 ○ライフサイクルアセスメント	熱環境特論 環境設計特論 環境建築設計特論	二宮 秀與 曾我 和弘 鷹野 敦
構 造 設 計	構造力学、荷重評価、構造性能評価、構造最適化、地震動の特性と地震災害、建築材料の材料工学や構法に関する研究教育と、コースワークを通して構造設計に関する教育を行う。 [主な研究テーマ] ○大スパン構造の設計 ○構造形態の創生 ○構造物の動的安定評価 ○フレッシュコンクリートの施工性能 ○高性能鉄筋コンクリート構造 ○建築構造物の性能設計・最適設計 ○建築物の地震応答性状と耐震安全性 ○木質ハイブリッドラーメン構造の開発	構造形態創生特論 構造設計特論Ⅱ 構造設計特論Ⅰ 建築材料学特論 連続体の力学 建築構造解析特論 構造設計特論Ⅱ	本間 俊雄 ** 塩屋 晋一 黒川 善幸 横須賀 洋平

**は2021年3月退職予定の教員

化学生命・化学工学専攻

化学生命・化学工学専攻では、人間社会および自然環境と科学技術の調和を希求しつつ、国際的な視点から新しい科学技術・産業構造を提案し、これを世界に発信できる高度専門職業人の育成を教育の理念としている。教育目的を具現化するため、以下の3つのコースワークを設けている。1) 化学工学コースでは、反応・分離・エネルギー伝達と変換・資源循環・機能性材料プロセッシング等の各種プロセス、およびこれら要素プロセスを集合する高度なシステム工学を、2) 応用化学コースでは、分子軌道論に基づいた有用物質の創造、材料表面観察技術の開発、新規機能物質の創成、クリーンエネルギー技術やそのための高度分析技術の開発に関する知識を、3) 生命工学コースでは、生命の恒常性やその仕組みの解明、疾病に対する創薬・ナノテクによる検査診断、バイオマテリアル開発に関する知識を、それぞれ体系的に学ぶことができる教育・研究体制を整えている。

コース ワーク	主 な 教 育 研 究 内 容	主 な 授 業 科 目	教 員 氏 名
化学 工 学	「環境と調和した化学プロセスの開発」、「エネルギーなどの資源を有効利用するシステムの構築」及び「高度な機能をもつ材料の創製」の分野で将来活躍できる研究者・技術者の育成を目指す。 〔主な研究テーマ〕 ○多相系反応器における反応と流動の解析 ○超音波を応用した優れた分離技術の開発 ○高機能性を付与した高分子微粒子に関する研究 ○固体酸化物形燃料電池材料に関する研究 ○微粉体流動化技術に関する研究 ○バイオマテリアル開発	反応工学特論 分離工学特論 機能性材料工学特論 セラミックス工学特論 微粒子工学特論 生物化学工学特論 固体酸化物形燃料電池の材料科学	甲斐 敬美 二井 晋 吉田 昌弘 鮫島宗一郎 中里 勉 武井 孝行 山地 克彦 ※
応 用 化 学	有用物質の創造、表面観察技術の開発、マイクロリアクターの開発、環境保全技術の開発などに優れた創造力・開発能力を有し、世界に情報発信できる能力を持つ人材の育成を目指す。 〔主な研究テーマ〕 ○環境中に放出される微量有害物質の分析・生体影響評価 ○金属薄膜表面の形態観察と状態分析 ○光と物質の相互作用の解明とそれを基にした新規な化学計測法の開発 ○分子集合体化学 ○環境質量分析化学 ○有機無機複合材料の創製 ○新たな理論化学手法の開発と実在分子系への応用	化学計測材料特論 理論分子科学特論 分光分析特論 機能性材料工学基礎特論 生体環境リスク基礎特論 環境分析化学特論 有機無機複合材料化学特論	肥後 盛秀 * 石川 岳志 吉留 俊史 上田 岳彦 高梨 啓和 中島 常憲 金子 芳郎
生 命 工 学	創薬や疾病の診断治療、持続的社会を構築するバイオベスマテリアルなどを新たに生み出す開発力を養い、習得した知識や手法に基づいた発想や成果を、世界に発信できる能力を持つ人材の育成を目指す。 〔主な研究テーマ〕 ○糖鎖の合成とナノバイオテクノロジー ○多糖の材料化・機能化 ○バイオ医薬品を志向したタンパク質・ペプチドのデザイン研究 ○生体高分子中の生物活性構造の探索とその機能材料化 ○機能性高分子材料の創製	生体分子親和機構論 高分子材料精密合成特論 生体高分子化学 生物有機材料化学 生体材料工学特論	隅田 泰生 門川 淳一 橋本 雅仁 出口 友則 ※ 山元 和哉

*は2020年3月退職予定の教員

※は客員教員

海 洋 土 木 工 学 専 攻

海洋土木工学専攻で取り扱う教育・研究の範囲は、沿岸域での土木工学，大陸棚以浅の海洋域での海洋構造物等の海洋工学に係わる諸問題を対象としている。したがって，学部での土木工学，海洋学に関する基礎教育・専門教育を踏まえ，沿岸域・海洋域での「海」に対する理解をさらに深め，地球環境を総合的に把握し，環境保全・開発，防災等に供用される土木構造物・海洋構造物建設のための調査・設計・施工・維持管理・補修，さらにはそれらの構造物の廃棄を含めた技術を修得したエンジニアの育成を目指している。

海洋土木工学専攻では，環境システム工学と建設システム工学の2分野にまたがる海洋土木工学の基礎を広く理解したうえで，1つ以上の分野に秀でた学生を育てるためのコースワークを構成している。各コースの主な教育研究内容，授業科目等は次のようになっている。

コース ワーク	主 な 教 育 研 究 内 容	主 な 授 業 科 目	教 員 氏 名
環 境 シ ス テ ム 工 学	沿岸域・海洋域での物理現象の解明，利用と開発，環境の保全，防災に重点をおいた研究教育を行っている。 [主な研究テーマ] ○海流発電の適地マッピング ○副振動発生予測システムの構築 ○東シナ海における大気海洋相互作用 ○浅海域における波浪変形の数値解析 ○海岸域・沿岸域の環境問題 ○表面波・内部波の力学 ○津波・高潮に対する沿岸域の防災 ○構造物に作用する津波波圧の特性 ○津波の遡上解析 ○沿岸域における富栄養化問題 ○沿岸域における凝集性懸濁物質動態 ○流域水循環と河川防災	海洋物理環境学特論 環境水理学特論 海岸防災特論 土砂水理学特論	山城 徹 安達 貴浩 柿沼 太郎 齋田 倫範
建 設 シ ス テ ム 工 学	沿岸域・海洋域での土木構造物・海洋構造物の建設のための「ものづくり」（設計，施工，補修）に重点をおいた研究教育を行っている。 [主な研究テーマ] ○土木構造物の動的応答解析と信頼性評価 ○地盤－基礎系の動的相互作用 ○鉄筋コンクリート構造の力学特性 ○合成構造の力学特性 ○新材料の開発利用 ○土木構造物の耐久設計と維持管理 ○社会基盤のアセットマネジメント ○点検診断技術の高度化 ○鋼の腐食・防食 ○地盤材料の構成式 ○軟弱地盤の変形・破壊予測 ○不飽和土の力学 ○土砂災害の発生機構と危険度予測	維持管理工学 〃 Advanced Concrete Technology 土質力学特論 地盤工学解析法 コンクリート構造特論 構造力学特論 地盤環境工学特論	審良 善和 加藤 絵万 ※ 武若 耕司 * 三隅 浩二 三隅 浩二 山口 明伸 木村 至伸 酒匂 一成

*は2020年3月退職予定の教員

※は客員教員

情報生体システム工学専攻

情報生体システム工学専攻ではソフトウェア工学、情報システム工学、脳認知工学、ならびに生体計測工学に関する高度な専門教育と研究活動を行います。根幹となる情報システム工学の知識と応用力に加え、ヒトの認知過程や生体システムの本質を理解し、人類のより豊かな生活の創造に貢献できる人材を育成することを目的としています。

本専攻では多様な科目履修を可能とするため下記の表の様に「協創情報学」「認知生体情報学」の2つのコースワークを設けています。学生は所属するコースワークの科目を履修することで高い専門知識を、他方のコースワークを履修することで幅広い知識を身につけることができます。

さらに、「情報生体システム工学特別研究Ⅲ」によって指導教員以外の担当教員による副テーマの研究を行い幅広い視野で情報生体システム工学に関する研究を進めることができます。

コースワーク	主 な 教 育 研 究 内 容	主 な 授 業 科 目	教 員 氏 名
協 創 情 報 学	本コースワークでは右記の主な授業科目に示すように計算機の情報処理とネットワーク面を主に教育し、次のような研究テーマの特別研究やゼミナールを通して協創情報学の専門性の高い技術者や研究者の養成を目指しています。 〔主な研究テーマ〕 ○量子アルゴリズムの研究 ○分散並列処理の研究 ○群知能・進化的アルゴリズムの研究 ○人間顔の自動抽出と個人認識に関する研究 ○分子コンピュータの研究 ○計算機ホログラフィによる光情報処理 ○分散システムと教育への応用 ○超伝導のシミュレーション ○連続状態空間における強化学習 ○有限要素法及び境界要素法による電磁場解析 ○多様性を有する表現に関する研究 ○計算知能とその応用に関する研究 ○生体高分子の構造と機能に関する研究 ○情報通信ネットワークの研究 ○人間の視覚情報処理とヒューマンインタフェースに関する研究 ○パタン認識・知能システムに関する研究 ○フィールド・ロボティクス	分子情報工学特論 光情報処理特論 生物情報科学 視覚情報処理工学 ソフトウェア工学特論 非平衡統計力学特論 人工知能特論 機械学習特論 知能ロボット工学特論	大橋 勝文 森 邦彦 升屋 正人 大塚 作一 ** 刈田 孝康 加藤 龍蔵 小野 智司 朱 碧蘭 鹿嶋 雅之
認 知 生 体 情 報 学	本コースワークでは右記の主な授業科目に示すように脳認知と生体計測面を主に教育し、次のような研究テーマの特別研究やゼミナールを通して認知生体情報学の専門性の高い技術者や研究者の養成を目指しています。 〔主な研究テーマ〕 ○神経細胞による視覚情報の符号化様式の研究 ○ヒトの動的視覚情報の処理特性に関する研究 ○水晶振動子を用いたセンサに関する研究 ○生体磁気刺激に関する研究 ○脳の視覚的認知機能に関する研究 ○視覚系・非視覚系経路のメカニズムの解明 ○生体運動制御メカニズムに関する研究 ○人間の聴覚情報処理に関する研究	知能画像工学 神経情報工学 複雑系生体情報システム特論 生体情報制御システム 聴覚情報処理特論 生体運動制御特論	渡邊 睦 内山 博之 吉本 稔 王 鋼 吉田 秀樹 塗木 淳夫

**は2021年3月退職予定の教員

数 理 情 報 科 学 専 攻

数学の基本構造とその解析はもとより，広く理系，文系の諸科学との交流により多様化をみせている数理科学及びその関連分野，さらに情報科学・計算機科学の理論的な基礎などの教育研究を行う。数学の基礎理論を深く理解するとともに，数理科学の発展に意味を与えている自然や社会の諸現象の数理的解析と計算機理論にも理解を持ち，かつ応用力のある人材の養成を図る。

コース ワーク	主 な 教 育 研 究 内 容	主 な 授 業 科 目	教 員 氏 名
数 理 構 造	数学は自然科学の発展とそれがもたらす科学技術の進歩に不可欠な理論的基礎を与えている。本コースでは，数学の理論体系に関する教育研究を行い，代数学，解析学，幾何学における数学構造の本質を追究する。 〔主な研究テーマ〕 ○微分幾何学 ○複素解析学 ○複素多様体論 ○圏論 ○位相幾何学	幾何学特論 複素解析学特論 複素代数幾何学特論 数理代数学特論 Advanced Topics in Topology	愛甲 正 小櫃 邦夫 村上 雅亮 中岡 宏行 與倉 昭治 ※
現 象 数 理	本コースでは，自然と社会に現れる諸現象の解析を視野に含め，以下の研究内容に関して，数理科学の理論的側面と応用についての教育研究を行う。 〔主な研究テーマ〕 ○表現論 ○確率論 ○離散群論	表現論特論 解析学特論 離散群論特論	伊藤 稔 松本 詔 近藤 剛史
情 報 数 理	情報科学は近年の計算機の著しい発達に伴い，急速な発展を遂げている。本コースでは，以下の研究内容に関して，情報科学分野の数学的理論と応用に関する教育研究を行う。 〔主な研究テーマ〕 ○信頼性理論・ネットワーク理論 ○理論計算機科学 ○統計科学	情報システム信頼性特論 情報意味論特論 社会数理学特論	新森 修一 古澤 仁 吉田 拓真

※は客員教員

物理・宇宙専攻

物理学は自然科学及び科学技術全ての基礎をなす重要な学問分野で、素粒子から物質、生命・宇宙までの非常に広い自然の階層全てを対象とする。本専攻では、自然の基本的かつ普遍的現象を見出し解明する研究に加え、物性研究や宇宙探求の最先端技術とも結びつく研究を行っている。そこでは、次世代技術の基礎を担い実践的に問題を解決していくことができる人材の養成もめざしている。宇宙航空研究開発機構、国立天文台との間で連携大学院をも構成しており、VERA望遠鏡を用いた銀河の研究も進めている。

コース フロンタ	主 な 教 育 研 究 内 容	主 な 授 業 科 目	教 員 氏 名
物理	1) 固体，薄膜，表面等の物理的・化学的性質を第一原理計算より解明し，新機能物質の探索を行っている。2) 力学系の基礎理論を研究し，リズムやカオス，パターン形成等，諸種の非線形現象の解明を目指している。3) 希土類や遷移金属元素の磁性体をはじめとする，各種強相関物質・機能性物質の電気的・磁氣的・熱力学的研究を行っている。 [主な研究テーマ] ○ハーフメタル，形状記憶合金，準結晶，合金触媒などの電子構造 ○カオス，非線形物理学 ○磁性化合物の物性研究 ○低温・強磁場下における物性研究	量子物理学特論 統計力学特論 カオスとフラクタル特論 低温物理学特論 磁性物理学特論 Advanced Magneto-Science 固体物理特論 計算物質科学特論 超伝導物理学特論	藤井 伸平 秦 重史 秦 浩起 廣井 政彦 伊藤 昌和 小山 佳一 三井 好古 野澤 和生 重田 出
宇宙	天の川銀河や近傍銀河，恒星の誕生，進化，銀河中心核の活動などを，電波・光赤外線望遠鏡を用いた観測，コンピュータシミュレーションによる理論計算によって究明する。天体からユニーク情報を得るため，観測装置開発も行っている。 [主な研究テーマ] OVERA望遠鏡・1 m 光赤外線望遠鏡による(1)天の川銀河の3次元構造と運動の解明，(2)恒星の変光現象の研究，OVERA望遠鏡等を用いた(3)天の川銀河，近傍銀河の星間物質・磁場の構造と運動の研究，(4)恒星の誕生と進化末期段階の研究，○星・惑星系形成の研究，○シミュレーションによる活動銀河中心核の研究 ○光赤外線望遠鏡用観測装置の開発，○FPGAボードによるデジタル電波分光計の開発	銀河電波天文学特論 電波干渉計特論 赤外線天文学特論 <i>Advanced study of Star and Planet Formation</i> 星間物理学特論 宇宙物理学特論 <i>Advanced studies of Observational Astronomy</i> 宇宙環境科学特論 宇宙環境計測特論 宇宙計量科学特論	半田 利弘 今井 裕 永山 貴宏 高桑 繁久 和田 桂一 中西 裕之 新永 浩子 木本 雄吾 ※ 越石 英樹 ※ 郷田 直輝 ※

※は客員教員

生 命 化 学 専 攻

生命化学専攻では、化学ならびに生物学の知識と技術の両方を併せ持ち、両分野にわたって活躍できる人材を養成する。研究分野には、物理化学的な手法を用いた界面活性剤と生体高分子との相互作用の解析、分光学的手法を用いた光化学の機構の解明及びナノ材料化学の合成に関する研究、動物や植物等の生物由来の生物活性物質の化学的研究、新規合成反応の開拓及び反応系の解明とその利用、タンパク質（特に抗体、酵素、ペプチド）の構造と機能解析及び医薬品やマテリアルとしての応用研究、また生体内及び生体間の遺伝子発現調節機構、個体発生のメカニズム、神経系の情報処理機構と行動発現の仕組みの解明などが含まれる。

コース ワーク	主 な 教 育 研 究 内 容	主 な 授 業 科 目	教 員 氏 名
分 子 機 能 化 学	界面活性剤の生体高分子との相互作用や反応機構の解明、それらの複合体の合成と利用、光生命現象や光機能分子の役割、金属ナノ粒子・半導体ナノ粒子の構造と機能についての、分子科学に関する研究を行っている。 [主な研究テーマ] ○分子集合体系での光化学 ○金属ナノ粒子の新規合成法の開発とバイオセンサーへの応用 ○レーザーアブレーションによるコロイド粒子の構造と機能	量子化学特論 Advanced Colloid Chemistry	新留 康郎 新留 康郎
有 機 生 化 学	動物や植物等に含まれる二次代謝産物の単離・構造決定ならびにその生物活性の研究、有機合成反応系の機構解明ならびにそれを利用した新規有機化合物の合成、タンパク質（特に抗体、酵素、ペプチド）の機能、改変及び構造解析などについての研究を行っている。 [主な研究テーマ] ○天然生物活性物質の構造と活性相関 ○立体選択的な有機合成反応の開発 ○タンパク質の構造と機能に関する研究 ○抗体やペプチドの新規デザインによる医薬品や機能性素子の開発	タンパク質化学特論 生理活性化合物合成特論 生体機能制御化学特論 天然物構造機能特論 有機反応特論	伊東 祐二 岡村 浩昭 有馬 一成 濱田 季之 横川 由起子
生 命 機 能	植物と微生物との共生機構の解明とその農業や環境修復への応用及び生物間相互作用における遺伝子発現の調節機構、脊椎動物の体軸形成の機構、痛覚や味覚によって誘発される行動の神経機構の解明などについての研究を行っている。 [主な研究テーマ] ○窒素固定共生系における微生物と宿主植物の相互作用 ○動物を用いた新規抗不安薬の探索 ○ツメガエル胚の体軸形成機構 ○環境汚染物質（水銀）の分子毒性メカニズム ○バクテリアの分子遺伝学 ○魚類の摂餌行動解発に関わる神経機構	発生細胞学特論 生命情報学特論 細胞分子機能特論 細胞生理化学特論 ゲノム情報学特論 Advanced Neuroethology	坂井 雅夫 * 笠井 聖仙 内海 俊樹 塔筋 弘章 九町 健一 池永 隆徳

*は2020年3月退職予定の教員

地球環境科学専攻

人間が生存する場である地球について、地圏、水圏と生物圏とを総合するグローバルな立場に立った総合的な教育と研究を進める。そのため本専攻では、自然環境の実態やその変動の基礎的なメカニズムを理解するために、主として、地学、生物学、化学の分野からの研究・教育を行う。社会の様々な立場で能力を発揮するために、個別課題に対する高度な専門知識だけでなく、従来の学問分野の枠を超えた幅広い知識と教養をあわせ持ち、柔軟かつ総合的な思考力を備えた人材の養成を目指している。

コース ワーク	主 な 教 育 研 究 内 容	主 な 授 業 科 目	教 員 氏 名
地 球 科 学	地形・地質学的手法による地質発達構造史の研究、化石を用いた生物進化の研究、環境鉱物学や環境微生物学的な手法を用いた地球環境の変遷維持機構や地球生命圏の実態解明に向けた研究、粘土鉱物の利用や機能開発など産業活動と直結する研究、斜面災害や地震・噴火災害など防災に関する研究、九州から南西諸島のテクトニクスを解明するための地震活動、プレート運動による地殻活動と火山噴火、噴火現象や噴火史などの調査研究が行われている。理工学研究科附属南西島弧地震火山観測所と協力して地震や火山の予知研究も行われている。 [主な研究テーマ] ○地史・地質構造発達と生物進化 ○粘土鉱物の生成機構 ○地質環境と防災 ○九州南西諸島域のテクトニクス ○地震活動 ○プレートの変動と火山噴火 ○火山地質	古脊椎動物学特論 環境鉱物学特論 災害地質学特論 地球テクトニクス特論 地殻構造特論 測地学特論 Earthquake Source Process 観測火山学特論	仲谷 英夫 * 河野 元治 井村 隆介 山本 啓司 宮町 宏樹 中尾 茂 小林 励司 八木原 寛
環 境 解 析	分析化学的立場から、水銀やヒ素等の微量分析法を確立し、環境中での存在形態を解明する。特に汚染地域における水銀の環境挙動を追跡し、生態系への影響についても評価を行う。また、環境中の無機成分の動態や化学的性質が溶存環境にどのような影響を受けるのか予測・解明するため、溶液中におけるイオンやコロイド粒子の溶媒和状や反応性について調べている。 [主な研究テーマ] ○水銀やヒ素等の微量分析法開発 ○微量元素の環境挙動の解明 ○イオンの溶媒和に関する熱力学的研究 ○イオン液体中におけるコロイド分散メカニズムに関する研究	環境化学特論 無機反応化学特論 微量分析化学特論	富安 卓滋 神崎 亮 児玉谷 仁
多 様 性 生 物 学	西南日本から東南アジア熱帯林にかけての陸域における植物を対象とした生態学的研究、分子細胞レベルの遺伝的多様性の研究、また、浅海域や淡水域における底生生物や、水中や陸上の軟体動物の分類・生態の研究が行われている。 [主な研究テーマ] ○植物の生活史や個体群動態 ○熱帯林の動態 ○植物の多様性と系統 ○底生生物の分類と生態 ○軟体動物の生態学	水圏生態学特論 行動進化学特論 Advanced Phylogenetic Botany 陸域物質循環特論	佐藤 正典 ** 富山 清升 宮本 旬子 相場 慎一郎

*は2020年3月退職予定の教員

**は2021年3月退職予定の教員

VII. 平成31年度 入学者選抜に関する入試状況

総 括

専 攻		募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
機 械 工 学		50	69	65	59	51
電 気 電 子 工 学		45	65	65	56	53
建 築 学		25	35	35	29	28
化学生命・化学工学	応用化学・生命工学コース	25	45	45	30	28
	化 学 工 学 コ ー ス	17	35	34	19	19
海 洋 土 木 工 学		18	16	16	14	11
情 報 生 体 シ ス テ ム 工 学		42	53	52	47	44
数 理 情 報 科 学		14	18	18	14	11
物 理 ・ 宇 宙		15	35	33	20	16
生 命 化 学		18	29	29	25	20
地 球 環 境 科 学		17	6	6	6	4
計		286	406	398	319	285

一般選抜（口述試験）

専 攻		募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
機 械 工 学		25	42	41	37	32
電 気 電 子 工 学		23	28	28	24	23
建 築 学		12	16	16	12	11
化学生命・化学工学	応用化学・生命工学コース	12	28	28	14	12
	化 学 工 学 コ ー ス	9	20	19	9	9
海 洋 土 木 工 学		9	11	11	9	6
情 報 生 体 シ ス テ ム 工 学		30	44	44	39	36
数 理 情 報 科 学		7	11	11	9	8
物 理 ・ 宇 宙		7	18	18	7	6
生 命 化 学		9	17	17	13	8
地 球 環 境 科 学						
計		143	235	233	173	151

一般選抜（筆答試験）

専 攻		募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
機 械 工 学		25	22	20	18	17
電 気 電 子 工 学		22	37	37	32	30
建 築 学		13	18	18	16	16
化学生命・化学工学	応用化学・生命工学コース	13	17	17	16	16
	化 学 工 学 コ ー ス	8	15	15	10	10
海 洋 土 木 工 学		9	3	3	3	3
情 報 生 体 シ ス テ ム 工 学		12	9	8	8	8
数 理 情 報 科 学		7	5	5	3	1
物 理 ・ 宇 宙		8	17	15	13	10
生 命 化 学		9	12	12	12	12
地 球 環 境 科 学		17	5	5	5	3
計		143	160	155	136	126

※口述試験不合格者等を含む

学際分野特別選抜

専攻		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
機	械工学	若干人				
電	気電子工学					
建	築学	若干人				
化学生命・化学工学	応用化学・生命工学コース	若干人				
	化学工学コース	若干人				
海	洋土木工学	若干人				
情	報生体システム工学					
数	理情報科学					
物	理・宇宙					
生	命化学					
地	球環境科学					
計			0			

社会人特別選抜（1次）

専攻		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
機	械工学	若干人				
電	気電子工学	若干人				
建	築学	若干人				
化学生命・化学工学	応用化学・生命工学コース	若干人				
	化学工学コース	若干人				
海	洋土木工学	若干人				
情	報生体システム工学	若干人				
数	理情報科学	若干人				
物	理・宇宙	若干人				
生	命化学	若干人				
地	球環境科学	若干人				
計			0			

外国人留学生特別選抜（1次）

専攻		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
機	械工学	若干人	2	2	2	1
電	気電子工学	若干人				
建	築学	若干人	1	1	1	1
化学生命・化学工学	応用化学・生命工学コース	若干人				
	化学工学コース	若干人				
海	洋土木工学	若干人				
情	報生体システム工学	若干人				
数	理情報科学	若干人				
物	理・宇宙	若干人				
生	命化学	若干人				
地	球環境科学	若干人				
計			3	3	3	2

一般選抜（２次）

専攻		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
機	械工学	若干人	1	1	1	1
電	気電子工学					
建	築学					
化学生命・化学工学	応用化学・生命工学コース					
	化学工学コース					
海	洋土木工学	7	2	2	2	2
情	報生体システム工学					
数	理情報科学	若干人	2	2	2	2
物	理・宇宙					
生	命化学	若干人				
地	球環境科学	12	1	1	1	1
計			6	6	6	6

社会人特別選抜（２次）

専攻		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
機	械工学	若干人				
電	気電子工学	若干人				
建	築学	若干人				
化学生命・化学工学	応用化学・生命工学コース	若干人				
	化学工学コース	若干人				
海	洋土木工学	若干人				
情	報生体システム工学	若干人				
数	理情報科学	若干人				
物	理・宇宙	若干人				
生	命化学	若干人				
地	球環境科学	若干人				
計			0			

外国人留学生特別選抜（２次）

専攻		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
機	械工学	若干人	2	1	1	0
電	気電子工学	若干人				
建	築学	若干人				
化学生命・化学工学	応用化学・生命工学コース	若干人				
	化学工学コース	若干人				
海	洋土木工学	若干人				
情	報生体システム工学	若干人				
数	理情報科学	若干人				
物	理・宇宙	若干人				
生	命化学	若干人				
地	球環境科学	若干人				
計			2	1	1	0